HP Client Automation

Core and Satellite

Starter、Standard、および Enterprise Edition

Windows® オペレーティング システム用

ソフトウェア バージョン : 7.90

入門およびコンセプト ガイド

製造部品番号 : なし
ドキュメントのリリース日 : 2010 年 5 月
ソフトウェアのリリース日 : 2010 年 5 月

ご注意

保証

HP の製品およびサービスで保証されるのは、製品およびサービスに添付される明確な保証文で説明されているものだけです。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

権利の制限

コンピュータ ソフトウェアの機密保持。所有、使用、または複製を行う場合には、HP からの正規のライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従い、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および市販品の技術データは、各販売業者の標準営業許可のもとに米国政府にライセンスされています。

著作権

© Copyright 2009-2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Intel® は米国内およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Microsoft®、Windows®、および Windows® XP は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

Oracle ® は Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新

本書のタイトル ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェア バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントのリリース日。ドキュメントが更新されるごとに変わります。
- ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新がないか確認したり、最新版のドキュメントを使用していることを確認したりするには、次の URL に移動してください。

http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトでは、HP Passport に登録し、サインインする必要があります。HP Passport ID に登録するには、次を参照してください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

または、HP Passport サインインのページの [**New user registration**] のリンクをクリックしてください。

適切な製品サポート サービスを購読している場合にも、更新版や新版を受け取ることができます。詳細については、HP 営業担当者までご連絡ください。

次の表には、前回のリリース以降に変更された箇所が示されています。

ドキュメントの変更点

章	バージョン	変更点
第 2 章	7.80	サイレント インストールは Core Server のみでサポートされており、Satellite Server ではサポートされていないことを記載しました。
すべて	7.80	Satellite Server は HPCA Enterprise Edition でのみ使用可能であるという注意を削除しました。Satellite Server は、Enterprise Edition および Standard Edition の両方で使用できるようになりました。
タイトル ページ	7.9	HPCA バージョン番号、パブリッシュの日付、および著作権日付を更新しました。
すべて	7.9	7.9 リリースの技術的な正確性を確認するドキュメントを更新しました。

サポート

次の HP Software のサポート Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトには、HP Software の製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ先情報が掲載されています。

HP Software オンライン サポートでは、お客様自身が問題を解決するために有益な情報を提供します。ビジネスを管理するために必要な対話型技術サポート ツールに素早く効率的にアクセスする方法を提供しています。サポートを受けるお客様は、サポート Web サイトを使用して次のことができます。

- 関心がある知識ドキュメントの検索
- サポート事例および機能強化リクエストの提出とサポート状況の追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート連絡先の確認
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア顧客とのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

多くのサポート エリアは、HP Passport のユーザー登録とサインインを必要とします。サポート契約が必要なエリアもあります。HP Passport ID に登録するには、次を参照してください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

アクセス レベルに関する詳細については、次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

1 はじめに 9
このマニュアルについて 10
HP Client Automation へようこそ 10
用語 11
HPCA マニュアル 13

2 HPCA のインストール 15
HPCA Server のインストール前の確認事項 16
Core Server 16
HPCA Administrator 16
Satellite Server 17
プラットフォーム サポート 17
システム要件 17
Core Server 18
Satellite Server 18
Web ブラウザ 19
モニタ設定 19
HPCA データベース 19
通信ポート 20
必須ポート 20
HPCA ポート 20
アウトバンド管理ポート 21
VMware の要件 22
HPCA Agent 23
HPCA データベースの作成 23
HPCA Patch Manager 23
HPCA Usage Manager 24

HPCA Core 用の SQL Server データベースの作成 24
SQL Server データベースの前提条件と注意事項 24
SQL Server と HPCA の通信 25
HPCA Core 用の Oracle データベースの作成 26
Oracle データベースの前提条件と注意事項 26
HPCA Server のインストール 29
その他のインストール情報 29
インストールの制約事項 29
Core Server のドメイン名 29
データベース セットアップ 30
GUI ベースのインストールとサイレント インストール 30
デフォルト インストール ディレクトリ 30
Windows サービス 31
インストール ファイルの変更 31
HPCA Server のインストール 32
HPCA のドキュメント 35
HPCA Satellite Server の無人設定 35
無人設定の機能 36
XML ファイル 36
XML ファイルの取得 37
XML ファイルのカスタマイズ 38
XML ファイルの適用 38
アクティビティ ログ 39
GET および SET 設定のコマンドライン 39
XML 設定ファイルのサンプル 39
サイレント インストール 44
構文 44
構文パラメータの説明 45
例 46
結果 46
Setup.exe ファイル 46
HPCA の削除 47
HPCA の修復 47

データ キャッシュ 事前読み込み用に Satellite を設定する 48
Satellite ID 48
フォローアップ 49
データ キャッシュの事前読み込み用のエンタイトルメント ポリシーの作成. 49
手動による HPCA Administrator インストール 52
HPCA を使用して Windows オペレーティング システムを管理する 54
アウトバンド管理 55
Windows サービス 55

3 HPCA の機能 57
HP Client Automation Core 58
HP Client Automation 環境での Core 58
Core の機能 59
Core の通信 59
HPCA Core Server コンポーネント 59
Core Server 独自のコンポーネント 60
HP Client Automation Satellite 62
最善実践に関する注意事項 63
Satellite の通信 63
HPCA Satellite Server コンポーネント 63
HPCA Server 通信ポート 65
HP Client Automation の機能 66
HP Client Automation コンポーネント 70
HP Client Automation コンソール 70
HP Client Automation Agent 70
HP Client Automation Administrator 71
Image Preparation Wizard 72

4 HPCA アーキテクチャ 73
HPCA フレームワークの合理化 74
インストール、ポート、サービスの統合化. 75
Core の機能概要. 77
Satellite の機能概要 78
柔軟性のある設定オプション. 79

Satellite 配布モデル 79
企業内に Satellite を設置する 79
フル Satellite やストリームライン Satellite の設定 81
Core および Satellite のメタデータとデータの同期化 82
階層化アーキテクチャの例 83

5 HPCA Enterprise 機能ビュー 87
セキュリティと適用状況管理ビュー 88
パッチ管理ビュー 90
パッチ取得とパブリッシュ 90
Patch Manager Agent のメンテナンス 91
OS 管理ビュー 92

A HPCA Enterprise ガイド 93

索引 97

1　はじめに

この章は以下を目的としています。

- このマニュアルの説明範囲と内容について理解する。
- HP Client Automation (HPCA) に関連する用語に精通する。

このマニュアルについて

このマニュアルでは、HP Client Automation (HPCA) の一般的な理解、および Core Server と Satellite Server のインストールと初期設定手順を説明します。さらに、このマニュアルでは、各 HPCA コンポーネントと機能、およびコンポーネント間の関連付けを高レベルで紹介することにより、HPCA を既存のエンタープライズ環境に適合する方法についてわかりやすく説明します。

HPCA コンソールの使用方法についての詳細は、『HP Client Automation Core および Satellite ユーザー ガイド』の Starter、Standard、または Enterprise Edition を参照してください。HPCA で利用可能なすべての追加機能とコンポーネントについての詳細は、HP Software のサポート Web サイト、または適切な HPCA マニュアルを参照してください。

HP Client Automation へようこそ

HPCA には Starter、Standard、および Enterprise の 3 つのライセンス エディションがあります。このマニュアルは、これらの各製品エディションの理解とインストールにお使いいただけます。HPCA コンソールで利用可能な機能は、インストールされているライセンスによって異なります。利用可能なすべての機能についての詳細は、第 3 章を参照してください。

これ以降の章では、以下のトピックについて説明します。

- 15 ページの「HPCA のインストール」
  この章では、HPCA Core および Satellite Server のインストール プロセスについて説明します。
- 57 ページの「HPCA の機能」
  この章では、HPCA Enterprise をサポートしている主要な機能、主なコンポーネントと追加機能について説明します。
- 73 ページの「HPCA アーキテクチャ」
  この章では、Core および Satellite Server を使用してお使いの管理対象デバイスのサポートに必要なインフラストラクチャの設定と拡大を迅速に行う方法について説明します。

- 87 ページの「HPCA Enterprise 機能ビュー」
  この章では、一部の HPCA プロセスについて説明します。この章は、HPCA のしくみを理解するのに役立ちます。

用語

以下の用語は、このマニュアルで頻繁に使用されます。

管理者

HP Client Automation (HPCA) Administrator を使用して HPCA 環境を設定および維持する担当者。

エージェント コンピュータ

HPCA Agent ソフトウェアがインストールされているコンピュータ (ワークステーションまたはサーバー)。デバイスと呼ばれることもあります。

現在のコンピュータ

組織内でアクティブで使用中のデバイス。指定のスケジュールで定期的に利用状況収集が実行される。「現在存在しないコンピュータ」を参照してください。詳細については、『Application Usage Manager ユーザー ガイド』を参照してください。

要求ステート

CSDB で設定した設定パラメータによって定義されたデバイスの状態。これらのパラメータには、ソフトウェア、オペレーティング システム、およびポリシーが含まれます。要求ステートは、主に HPCA Enterprise Edition で使用されます。

デバイス

コンピュータや ATM などのハードウェアの 1 つで、管理対象デバイスの場合もあればターゲット デバイスの場合もあります。

HP Client Automation Administrator (Administrator)

HPCA 環境の管理に使用する HP Client Automation Administrator ツール (Agent Explorer、Packager、Publisher、CSDB Editor、Screen Painter、AMP Editor など) のセット。使用可能なツールの正確なセットは、製品ライセンスによって異なります。

HPCA Agent

管理対象デバイスで実行され、Configuration Server と通信するエージェント ソフトウェア (Application Self-service Manager、Application Manager、Patch Manager、Inventory Manager、OS Manager など)。

HPCA Agent 接続

管理対象デバイスが HPCA Configuration Server と通信するためのプロセス。

HPCA Configuration Server (Configuration Server)

CSDB と連動して、アプリケーション パッケージ情報を格納、管理、および配布し、ポリシー関係と管理対象デバイスの情報を管理するサーバー。このサーバーは HPCA 環境に必須で、これがないとインフラストラクチャは機能しません。

HPCA Configuration Server Database (CSDB)

デバイス上の資産を管理するために必要なすべての情報を格納するオブジェクト指向データベース。情報には、HPCA が配布するソフトウェア、パッチ、OS イメージやデータ、どのユーザーがどのリソースを使用できるかを決めるポリシー、および管理者のセキュリティとアクセス規則が含まれます。CSDB は、ファイル、ドメイン、クラス、およびインスタンスの 4 レベル構成の階層構造になっています。

HPCA Core

クライアントで管理されるすべてのリソースの信頼できるデータ リポジトリ、ポリシーのエンタイトルメント、および要求ステート設定パラメータを維持する重要なサーバー。Core Server には、認証、集中管理、レポート、設定、リソース配布、Satellite 通信に必要な Client Automation インフラストラクチャの完全なセットが含まれます。

HPCA Satellite

HPCA Agent の通信とリソースのアクセス ポイントの役割を果たすサーバー。

管理対象デバイス

HPCA によって管理されるコンピュータ、ATM、またはその他のハードウェア。

現在存在しないコンピュータ

さまざまな理由によりネットワークに存在しなくなったデバイス。たとえば、デバイスがネットワークから削除されているか、デバイス名が変更されているなどです。「現在のコンピュータ」を参照してください。詳細については、『Application Usage Manager ユーザー ガイド』を参照してください。

パッケージ

CSDB にパブリッシュされるソフトウェアまたはデータのユニット。

ポリシー

サブスクライバ、エージェント コンピュータ、または管理対象デバイスがアクセスするサービスの指定。

解決

管理対象デバイスのオブジェクト属性値が、その要求ステートに到達するために必要な値で置換されるプロセス。

サービス

管理可能なユニットにまとめられた関連のあるパッケージ、手法、または動作のグループ。

ターゲット デバイス

そのソフトウェアをインストール、置換、または更新するワークステーションまたはサーバー。

ユーザーまたはサブスクライバ

管理対象デバイス上の管理対象アプリケーションを使用する人。

HPCA マニュアル

このマニュアルでは HPCA コンポーネントとコンセプトの概要、および Core Server と Satellite Server のインストール情報について説明していますが、それは導入部分にすぎません。詳細については、HP Software のサポート Web サイトと HPCA DVD メディアを参照してください。

- HPCA Core and Satellite のインストール後は、ライセンスのエディションに応じて、次の項目を参照してください。
  - *HP Client Automation Core Starter ユーザー ガイド*
  - *HP Client Automation Core Standard ユーザー ガイド*
  - *HP Client Automation Core および Satellite Enterprise ユーザー ガイド*

  これらのガイドは HPCA コンソールを使用する際に必要なすべての情報や、必要に応じて HPCA ライブラリのその他のガイドの参照先を提供します。

- Enterprise ライセンスのユーザーの方は、93 ページの「HPCA Enterprise ガイド」にあるその他関連マニュアルのリストを参照してください。

  ➤ HP Software のサポート Web サイトを定期的にチェックして、新しいマニュアルや改訂されたマニュアルがないかを確認してください。

2 HPCA のインストール

この章では、HP Client Automation サーバー (Core and Satellite) およびそれらコンポーネントのインストールと設定方法について説明します。次のセクションでは、HPCA Server のインストール前の確認事項と要件、およびインストール手順を説明します。また、HPCA Core Server に自動的にインストールされるようにデフォルト設定されている HPCA Administrator の手動インストール (オプション) についても述べています。

- 16 ページの「HPCA Server のインストール前の確認事項」
- 23 ページの「HPCA データベースの作成」
- 29 ページの「HPCA Server のインストール」
- 35 ページの「HPCA Satellite Server の無人設定」
- 48 ページの「データ キャッシュ 事前読み込み用に Satellite を設定する」
- 52 ページの「手動による HPCA Administrator インストール」
- 54 ページの「HPCA を使用して Windows オペレーティング システムを管理する」
- 55 ページの「アウトバンド管理」
- 55 ページの「Windows サービス」

HPCA Server のインストール前の確認事項

ライセンスを所有している HPCA 製品をインストールする前には、必ずこのセクションに記載されているインストール前の確認事項をご確認ください。

Core Server

HPCA Core サーバーは、HP Client Automation 環境用のデータのプライマリリポジトリです。実行可能な HPCA 環境を確立するには、最低 1 台以上の Core Server が必要です。

HPCA Satellite Server を既にホストしているマシンに、Core Server をインストールすることはできません。インストールしようとした場合、エラー メッセージが表示され、インストール プログラムは中止します。

インストール後は、HPCA Administrator を使用して、企業全体に配布するソフトウェア アプリケーションを用意する必要があります。

HPCA Administrator

HPCA Administrator は Core Server のインストールの一部として自動的にインストールされます。Core Server のデータベースへのポイントであり、HPCA 環境の設定や維持に使用できる管理ツール セットが含まれています。

- HPCA Administrator の手動インストールについての詳細は、52 ページの「手動による HPCA Administrator インストール」を参照してください。

  ➤ Standard および Starter Edition では、HPCA Administrator の簡素化バージョンである *HPCA Publisher* と *HPCA Agent Explorer* のみが自動的にインストールされます。ただし、HPCA Administrator の完全バージョンを手動でインストールできます。

- HPCA Administrator の機能についての詳細は、*HP Client Automation Administrator ガイド*を参照してください。

Satellite Server

HPCA Satellite Server は、すべての HPCA Agent 用の HP Client Automation インフラストラクチャへのアクセス ポイントです。HPCA Core Server に依存および従属し、Core および HPCA Agent 間の中間点として機能します。

HPCA Core Server を既にホストしているマシンに、Satellite Server をインストールすることはできません。インストールしようとした場合、エラー メッセージが表示され、インストール プログラムは中止します。

Satellite Server はデバイスに手動でインストールするか、コンソールから配布できます。Satellite の手動インストールについての詳細は、32 ページの「HPCA Server のインストール」を参照してください。Satellite のコンソールからの配布については、ご使用のライセンス エディションの *HP Client Automation ユーザー ガイド*を参照してください。

プラットフォーム サポート

このリリースのオペレーティング システム要件については、HP Software 製品マニュアルの Web サイトにある HPCA のサポート マトリクスを参照してください。URL およびこの Web サイトにアクセスする方法の詳細については、3 ページの「ドキュメントの更新」を参照してください。このマトリクスは、`\Documentation` ディレクトリにあるこの製品の配布メディアにもあります。

システム要件

このセクションでは、Core Server と Satellite Server のインストールに関するシステム要件について説明します。

➤ これらの要件の一部は HPCA 環境の初期設定 (プログラム データのみ) 専用であること、そして HPCA 環境の拡大に伴い、データベースの拡大やキャッシングに対応するためにこれらの空き容量の要件も増加することに留意してください。

推奨される開始容量は最低 20GB です。

Core Server

Core Server のシステム要件は次のとおりです。

- 2 GB RAM (最小); 4 GB RAM (推奨)
- デュアルコア プロセッサを搭載した専用サーバー
- CPU 速度 2 GHz
- 3 GB の空きディスク スペース

Satellite Server

Satellite Server のシステム要件は次のとおりです。

Satellite Server をインストールする前に、この章にある Satellite Server の以下の追加セクションをご確認ください。

- 35 ページの「HPCA Satellite Server の無人設定」インストール前に Satellite 用に事前設定する方法について説明します。
- 48 ページの「データ キャッシュ 事前読み込み用に Satellite を設定する」Satellite をアップストリーム ホストと同期する前に完了する必要のあるデータ キャッシュ手順を説明します。

フルサービス モード

- 1GB RAM (最小); 2 GB RAM (推奨)
- デュアルコア プロセッサ
- CPU 速度 2 GHz
- 2 GB の空きディスク スペース

ストリームライン モード

- 512 MB RAM (最小); 1 GB RAM (推奨)
- デュアルコア プロセッサ
- CPU 速度 1.6 GHz
- 2 GB の空きディスク スペース

Web ブラウザ

HPCA サーバーには、各種管理と設定タスクを実行できるコンソールがあります。これらのコンソールでは、次の Web ブラウザやバージョンのみをサポートしています。

- Microsoft® Internet Explorer®、バージョン 7.0 および 8.0。

  ➤ ブラウザのセキュリティ レベルを「中」よりも高く設定することはできません。

- Mozilla Firefox、バージョン 3.5 以降。

  — HPCA アウトバンド管理ウィンドウは、Firefox をサポートしていません。

モニタ設定

HP では、HPCA コンソールを適切に表示できるよう、次に示す最小限の設定をお勧めします。

- 画面解像度 : 1024x768
- 色品質 : 中 (16 ビット)

HPCA データベース

Core Server をインストールする前に、HPCA が管理レポート オブジェクト用に使用する ODBC 準拠のデータベースを作成する必要があります。このデータベースは Microsoft SQL Server Database または Oracle Database のいずれでもかまいません。Core Server 専用のデータベース作成についての詳細は、23 ページの「HPCA データベースの作成」を参照してください。

- HPCA の **Enterprise** エディション ライセンスをお持ちの場合、サポート対象のデータベースは **Microsoft SQL Server** または **Oracle** のいずれかです。
- HPCA の **Starter** または **Standard** エディションのいずれかのライセンスの場合は、**Microsoft SQL Server** を使用する必要があります。

通信ポート

HPCA Server はお互いに通信し、このセクションで説明しているポート上の管理対象デバイスと通信します。したがって、これらのポートは空けておく必要があります。インストール開始時に自動的に実行されるシステム クエリによって、これらのポートの可用性が検証されます。使用できない場合は、インストールに失敗します。

サイレント インストールを介して HPCA Core Server をインストールする場合 (44 ページの「サイレント インストール」を参照)、インストール前のシステム クエリの結果がログにキャプチャされます。

HPCA Server のホスト マシンにファイアウォールが設定されている場合、これらのポートをファイアウォールの「例外」リストに追加する必要があります。

必須ポート

SSL が有効化されていない場合、ポート **3464** と **3466** は、Core and Satellite 通信に使用されるプライマリ ポートとなります。したがって、HPCA デバイス間に必要なリモート通信を確保するために、これらのポートを有効にする必要があります。これら 2 つのポートが有効になっていない場合、HPCA 環境は機能しません。

これらのポートは HPCA Server インストール時のオプション (**これらのポートを通して通信できるように Windows ファイアウォールを変更してください**) によって自動的に有効にすることができます。インストール時にこのオプションを選択すると、その他のポート設定をする必要はありません。

一部の環境には特殊なファイアウォールが設定されているため、このオプションの選択はお勧めしません。この場合、すべてのファイアウォール フィルタリングからこれらの 2 つのプライマリ ポートを除外する必要があります。除外しないと HPCA は正常に機能せず、リモート デバイスは HPCA Server と通信できなくなります。

HPCA ポート

- **TCP 3464**: HPCA Configuration Server のデフォルト ポートです。Core Server で利用できるようにする必要があります。フル サービス モードに設定された Satellite Server でも利用できるようにする必要があります。
- **TCP 3465**: Core Server からの受信通知リクエストを受け取るために HPCA Agent が使用するポートです。

- **TCP 3466**: このサーバーが別の HPCA (Core and Satellite) Server や HPCA Agent との通信に使用するメイン HTTP ポートです。すべてのユニキャスト データ ダウンロードはこのポートで処理されます。
- **UDP 3466**: このポートは、Satellite 上で HPCA OS Manager が有効になっている場合にのみ必要です (デフォルトでは無効になっています)。低レベルの PXE BootLoader によって、デバイスをプロビジョンするか、再プロビジョンするかを決定するのに使用されます。
- **UDP 9100**: HPCA Multicast Server のデフォルト ポートです。
- **TCP 443** (SSL):「セキュア HTTP」(**HTTPS**) 通信に使用されるポートです。
- **TCP 444** (SSL): HPCA Configuration Server が有効になっている場合、「セキュア TCP」(**TCPS**) 通信に使用されるポートです。

➤ このポートは、すべての Core Server ホスト マシンで利用できるようにする必要があります。
このポートは、フル サービス Satellite Server をホストするすべてのマシンで利用できるようにする必要があります。

アウトバンド管理ポート

アウトバンド管理を使用する場合、受信および送信トラフィックを許可するよう次の追加ポートを利用できるようにする必要があります。

アウトバンド管理コンソールと vPro デバイス間の通信の場合

- **162**: 警告管理用。注：ポート 162 は標準 SNMP ポートです。HPCA Core Server 上で SNMP レシーバーを実行している場合、競合が起こります。
- **9999**: SOL 表示アプレットとサーバーの Web アプリケーション間の通信用のデフォルト開始ポートです。**`ovconfchg`** コマンドを使用して設定できます。
- **16692**: TCP 上の Web サービス トラフィック用。
- **16693**: TLS 上の Web サービス トラフィック用 (クライアント認証あり)。
- **16694**: TCP 上の SOL/IDE-R 用。
- **16695**: TLS 上の SOL/IDE-R 用 (クライアント認証あり)。

ブラウザとサーバーの通信の場合

- **9999**: SOL 用のアプレットとサーバー ソケット通信用。このポートは、同様にクライアント ブラウザ システム上でも利用できるようにする必要があります。

アウトバンド管理コンソールとローカル エージェント間の通信の場合

- **9998**: vPro デバイスのリモート設定時のアウトバンド管理コンソールとローカル エージェント間の通信用。

DASH デバイスを搭載したアウトバンド管理コンソールの場合

- **623**: DASH デバイスとの通信用。

VMware の要件

HPCA を Windows XP Professional ホスト オペレーティング システムを使用する VMware 環境にインストールする場合、インストールがハングアップする可能性があります。VMware [**詳細オプション**] の [**アクセラレーション**] を無効化することで、インストールを続行できる可能性があります。[**アクセラレーション**] は、インストール完了後に再び有効化することができます。

VMware 環境にインストールされている HPCA は、テストまたは評価目的でのみ使用してください。

HPCA を VMware 環境にインストールする場合、次の要件を満たす必要があります。

- VMware、バージョン 6.02 以上
- 2 GB のメモリーの割り当て
- 8 GB HDD の領域の割り当て (移行には追加の領域が必要になる可能性があります)
- ホスト OS: Windows 2003 Server または Windows 2008 Server
- ゲスト OS: Windows 2003 Server または Windows 2008 Server
- ホスト システム : VMware が必要に応じてアフィニティを 1 に設定できるようなデュアル プロセッサ (最低 2 GHz CPU)
- 追加 HPCA Server 要件については、17 ページの「システム要件」を参照してください。

HPCA Agent

HPCA Agent は、エンドユーザー マシンにインストールされるクライアント マシンベースの HPCA コンポーネントです。このコンポーネントには、機能を強化するいくつかの下位機能があります。HPCA Agent を Core コンソールからエンドユーザー マシンに配布したり、これらのマシンに手動でインストールしたりできます。

HPCA データベースの作成

Core をインストールする前に、HPCA が使用する ODBC 準拠データベース (**Microsoft SQL Server** または **Oracle** のいずれか) を作成する必要があります。

➤ ODBC 準拠データベースの作成方法が不明な場合は、データベースの管理者に問い合わせてください。

次のセクションでは、Microsoft SQL サーバーおよび Oracle データベース作成の前提条件と手順について説明します。

- 24 ページの「HPCA Core 用の SQL Server データベースの作成」
- 26 ページの「HPCA Core 用の Oracle データベースの作成」

➤ また、これらの各データベース用に ODBC DSN を定義する必要があります。

ODBC DSN の作成方法が不明な場合は、データベースの管理者に問い合わせてください。

HPCA Patch Manager

HPCA Patch Manager を有効にする場合は、Patch Manager データを保存するための Patch Manager 固有の追加データベースをオプションで 1 つ作成することができます。

➤ HP は、Patch Manager データをデバイス、インベントリ、およびアプリケーション情報と別々にするために、この Patch Manager 固有の追加データベースを作成することをお勧めします。この操作は、コンソールの [設定] > [パッチ管理] セクションを使用して実行できます。

- **MDAC 要件**：パッチ管理には、**Microsoft Data Access Components** (**MDAC**) が Core Server 上にインストールされている必要があります。最低限必要なバージョンは 2.8 です。

  このインストール メディア (`MDAC_TYP.EXE`) は `Setup-Core` ディレクトリの `Microsoft` フォルダに格納されています。

HPCA Usage Manager

HPCA Usage Manager を有効にする場合は、Usage Manager データを保存するための Usage Manager 固有の追加データベースをオプションとして 1 つ作成できます。

HP は、Usage Manager データをデバイス、インベントリ、およびアプリケーション情報と別々にするために、この Usage Manager 固有の追加データベースを作成することをお勧めします。この操作は、コンソールの [設定] > [利用状況管理] セクションを使用して実行できます。

- **MDAC 要件**：利用状況管理には、**Microsoft Data Access Components** (**MDAC**) が Core Server 上にインストールされている必要があります。最低限必要なバージョンは 2.8 です。

  このインストール メディア (`MDAC_TYP.EXE`) は `Setup-Core` ディレクトリの `Microsoft` フォルダに格納されています。

HPCA Core 用の SQL Server データベースの作成

このセクションの指示に従って、Core Server のレポート オブジェクト用の Microsort SQL サーバー データベースを作成してください。データベースを作成するセキュリティ権限を持たない場合は、SQL データベースの管理者に連絡してください。

SQL Server データベースの前提条件と注意事項

- Microsoft SQL Server 2005 または Microsoft SQL Server 2008 は、ローカルにインストールされているか、HPCA Server からリモートでアクセスできる必要があります。

  SQL Server Personal Edition は、サポート データベースとしてお勧めしません。テストやデモンストレーション用にのみ使用を制限してください。

- SQL Server は、**混在モード認証**を使用するように設定し、TCP/IP サポートを有効にする必要があります。

- **Windows 64 ビット ODBC DSN で 32 ビット ドライバが必要** : Windows 64 ビット オペレーティング システムで実行される HP Client Automation コンポーネントは、**32 ビット エミュレーション モード**で動作します。したがって、Windows 64 ビット オペレーティング システムで ODBC ドライバを使用する場合、32 ビット ドライバを使用するデータベース用の ODBC システム DSN を作成してください。

  64 ビット オペレーティング システムで、`C:\Windows\SysWOW64\odbcad32.exe` を実行して 32 ビット ODBC Data Source Administrator にアクセスし、HPCA 製品に必要なシステム DSN を作成または修正します。

- このセクションに記載されている「ストレージ」のサイズは推奨のみを目的としています。お使いの環境の管理対象デバイス数、および収集する情報の種類に基づいてこれらの値をカスタマイズしてください。

SQL Server と HPCA の通信

- HPCA Server を収容するサーバーとは別のサーバーに SQL Server がインストールされている場合、これらサーバー間の通信が可能になるようにファイアウォール規則の追加が必要なことがあります。SQL Server に必要なポートをオープンする方法についての詳細は、Microsoft サポート技術情報の記事 **841251** (**http://support.microsoft.com/?ln=ja**) を参照してください。

- SQL Server は、スタティック ポートを使用するように設定する必要があります。スタティック ポートの使用方法の詳細については、SQL Server マニュアルを参照してください。

HPCA Core 用の SQL Server データベースを作成するには

SQL Server データベースの作成方法が不明な場合は、データベースの管理者に問い合わせてください。

ODBC DSN の作成方法が不明な場合は、データベースの管理者に問い合わせてください。

1. Microsoft SQL Server 上で、次の推奨設定のデータベースを作成します。

[全般] タブ	名前 : 空白またはアンダースコアを含まない任意の名前 (**HPCACORE** など)
[データ ファイル] タブ	初期サイズ : 500 MB 20 % ずつの自動拡張を選択
[トランザクションログ]タブ	初期サイズの変更 : 100 MB

2 SQL Server 認証を使用します。

3 デフォルトのデータベースを、手順 1で使用したデータベース名に変更します。

➤ SQL Server 名、admin ユーザーの ID およびパスワードが、HPCA のインストール中に必要となります。

4 Core Server をホストするコンピュータで、任意の名前 (**HPCAODBC** など) で ODBC システム DSN を作成し、SQL Server 上で新しい Core データベースに対して指定します。

これにより、データベースが接続され、HPCA Server のインストールを続行できるようになります。32 ページの「HPCA Server のインストール」に記載されています。

HPCA Core 用の Oracle データベースの作成

このセクションの指示に従って、Core Server のレポート オブジェクト用の Oracle データベースを作成してください。データベースを作成するセキュリティ権限を持たない場合は、Oracle データベースの管理者に連絡してください。

➤ Oracle データベースのサポートは、HPCA Enterprise Edition に限られます。

Oracle データベースの前提条件と注意事項

- HP は、Oracle データベースの使用時に、利用可能な最新のパッチ セットを使用することをお勧めします。
- お使いの環境の Oracle バージョン固有の Oracle Corporation の ODBC ドライバ (Microsoft が提供するものではない) を使用する必要があります。
- お使いの Oracle サーバー ODBC ドライバと Core Server が完全に一致していることをご確認ください。ODBC ドライバ バージョンが一致していない場合、Oracle データベースへの接続に失敗することがあります。

  詳細については、Oracle データベースの管理者にお問い合わせください。
- このセクションに記載されている「ストレージ」のサイズは推奨のみを目的としています。お使いの環境の管理対象デバイス数、および収集する情報の種類に基づいてこれらの値をカスタマイズしてください。

- **Windows 64 ビット ODBC DSN で 32 ビット ドライバが必要**：Windows 64 ビット オペレーティング システムで実行される HP Client Automation コンポーネントは、**32 ビット エミュレーション モード**で動作します。したがって、Windows 64 ビット オペレーティング システムで ODBC ドライバを使用する場合、32 ビット ドライバを使用するデータベース用の ODBC システム DSN を作成してください。

  Windows 64 ビットオペレーティング システムで、`C:\Windows\SysWOW64\odbcad32.exe` を実行して 32 ビット ODBC Data Source Administrator にアクセスし、HPCA 製品に必要なシステム DSN を作成または修正します。

HPCA Core 用の Oracle データベースを作成するには

Oracle データベースの作成方法が不明な場合は、データベースの管理者に問い合わせてください。

ODBC DSN の作成方法が不明な場合は、データベースの管理者に問い合わせてください。

1 Oracle サーバー上に、次の推奨設定のデータ表領域を作成します。

表領域名	任意の名前 (**`HPCACOREDATA`** など)
ステータス	オンライン
タイプ	永続
データ ファイル	データ ファイルのフルパスと名前 (`HPCACOREDATA.dbf` など)
ストレージ	最小サイズは 200 MB で、上限なし
エクステント管理	自動割り当てでローカルに管理
セグメント領域の管理	自動
ロギングを有効化	いいえ

2 次の推奨設定で一時的な表領域を作成します。

表領域名	任意の名前 (**HPCACORETEMP** など)
ステータス	オンライン
タイプ	一時
データ ファイル	データ ファイルのフルパスと名前 (HPCACORETEMP.dbf など)
ストレージ	サイズ 1000 MB
エクステント管理	自動割り当てでローカルに管理
セグメント領域の管理	自動
ロギングを有効化	いいえ

3 ユーザーを作成し、データと一時表領域をデフォルト プロファイルを持つユーザーに関連付けます。

ユーザー名	任意の名前 (**HPCACORE** など)
パスワード	自社のセキュリティに関する推奨事項に基づいて作成
デフォルト表領域	HPCACOREDATA
一時表領域	HPCACORETEMP
プロファイル	このスキーマでは DEFAULT または PROFILE NAME を使用
ロール	CONNECT および RESOURCE
システム権限	CREATE ANY VIEW SELECT ANY TABLE UNLIMTED TABLESPACE UPDATE ANY TABLE

4 Core Server をホストするコンピュータで、任意の名前 (**HPCAODBC** など) で ODBC システム DSN を作成し、Oracle サーバー上で新しい Core データベースに対して指定します。

これにより、データベースが接続され、HPCA Server のインストールを続行できるようになります。32 ページの「HPCA Server のインストール」に記載されています。

HPCA Server のインストール

このセクションでは、HPCA インストーラーによる HPCA Server のインストールについて説明します。この基本的な HPCA Server インストールは、HP の発行するライセンスによって異なる 3 種類の製品のインストール (以下を参照) の基盤となります。

- Starter
- Standard
- Enterprise

その他のインストール情報

このセクションでは、インストールを実施する前に確認する必要のある追加情報について説明します。

インストールの制約事項

HPCA Satellite Server を既にホストしているマシンに、Core Server をインストールすることはできません。また、HPCA Core Server を既にホストしているマシンに、Satellite Server をインストールすることはできません。

いずれかのインストールを実行しようとすると、エラー メッセージが表示され、インストール プログラムは中止します。

Core Server のドメイン名

HP は、HPCA Server 名を求められた際には、常に完全なドメイン名を指定することをお勧めします。この方法により、「下位」の Satellite および HPCA Agent をインストールした際、適切なサーバーへ確実にマッピングされるようになります。

データベース セットアップ

HPCA Server をインストールする前に、HPCA Core Server 用に Microsoft SQL Server または Oracle データベースをセットアップする必要があります。データベースのセットアップ手順は、24 ページの「HPCA Core 用の SQL Server データベースの作成」または 26 ページの「HPCA Core 用の Oracle データベースの作成」を参照してください。

GUI ベースのインストールとサイレント インストール

このセクションに記載されているインストール手順は、GUI ベースのインストールについて説明したものです。HPCA Server は、44 ページの「サイレント インストール」で説明している「サイレント」モードでインストールすることもできます。

デフォルト インストール ディレクトリ

HPCA Core Server および Satellite Server のインストールを実行すると、デフォルトで次のディレクトリが作成されます。サーバーおよびデータ ファイルの代替ディレクトリはインストール時に指定することができます。

このセクションに記載されているディレクトリは英語版のオペレーティング システム固有のものです。英語以外の言語のオペレーティング システムでは、HPCA Server のインストール時に、適切なデフォルトの場所にこれらのディレクトリが作成されます。

- Core Server および Satellite Server のファイルは、デフォルトでは 32 ビット `\Program Files` ディレクトリの `Hewlett-Packard\HPCA` にインストールされます。
- Core Server および Satellite Server のデータ ファイルは、デフォルトでは 32 ビット `\Program Files` ディレクトリの `Hewlett-Packard\HPCA\Data` にインストールされます。
- Core Server および Satellite Server のインストールでは、それぞれ 2 つのログ ファイルが生成され、どちらもインストールを実行したユーザーの `Local Settings\Temp` ディレクトリ内に保存されます。
  - どちらのインストールの場合でも、常に `hpca-install.log` ファイルが作成されます。
  - サーバー固有のログ ファイル (`HPCACore_setup.log` または `HPCASatellite_setup.log` のいずれか) も、`.msi` または `.exe` ファイルのどちらでインストールが実行されたかに関係なく作成されます。

ログ ファイルの考慮事項

- インストールの実行に setup.exe を使用する場合、インストール前に setup.ini ([options] セクションの log.filename エントリ) でログ ファイルの保存場所を変更できます。
- .msi ファイル経由のサイレント モードでインストールを実行する場合、ログ ファイルの名前と場所は **/l msiexec** コマンドライン オプションを使用して変更できます。「44ページの「サイレント インストール」」を参照してください。

Windows サービス

Core Server と Satellite Server がインストールされたら、Windows サービスとして実行されます。詳細については、55 ページの「Windows サービス」を参照してください。

インストール ファイルの変更

インストール時に使用するファイルは変更することができます。例えば、ファイルの最新バージョンへの更新が利用可能な場合、次の手順でインストール時に含めることができます。

1. HPCA インストール ファイルを新しい場所へコピーします。
2. 新しいサブディレクトリを作成します。
   a. インストール ファイルを変更するには、.msi ファイルと同じディレクトリ内に Updates という新しい名前のディレクトリを作成します。
   b. 他の標準デッキをすべて適用した後に HPCA データベースに追加のエクスポート デッキを適用するには、Decks という新しいディレクトリを作成します。
3. インストール時に使用したい任意のファイルを追加します。例えば、Core インストールを別の em.war ファイルと実行したい場合、次のディレクトリ パスを作成します。

   <*source dir*>\Updates\tomcat\webapps\em.war
4. インストールを実行します。新しいファイルが使用されます。

HPCA Server のインストール

お使いの環境にある専用サーバーに HPCAS をインストールします。

HP は、HPCA Server 名を求められた際には、常に完全なドメイン名を指定することをお勧めします。この方法により、「下位」の Satellite および HPCA Agent をインストールした際、適切なサーバーへ確実にマッピングされるようになります。

HPCA Server をインストールするには

1 インストール メディアを挿入し、Core Server インストール ファイルにアクセスするために `Setup-Core` ディレクトリに移動します。

`Setup-Satellite` ディレクトリに移動して、Satellite Server インストール ファイルにアクセスします。

2 **setup.exe** をダブルクリックします。HP Client Automation へようこそウィンドウが開きます。

3 **[次へ]** をクリックします。HP Client Automation Software エンドユーザーライセンス契約のウィンドウが表示されます。

4 **[ライセンス契約に同意します]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

ライセンス契約に同意しない場合、インストールプログラムは終了します。

[HP Client Automation インストール フォルダ] ウィンドウが開きます。

5 [インストールフォルダ]フィールドには、HPCA Server ファイルのデフォルトディレクトリ(30 ページの「デフォルト インストール ディレクトリ」に記載)が表示されます。

— デフォルトの場所を承認するか、**[ブラウズ]** をクリックして別の場所を指定します。

[次へ] をクリックします。[HP Client Automation データ フォルダ] ウィンドウが開きます。

6 [データ フォルダ] フィールドには、HPCA Server ファイルのデフォルト ディレクトリ (30 ページの「デフォルト インストール ディレクトリ」に記載) が表示されます。

— デフォルトの場所を承認するか、**[ブラウズ]** をクリックして別の場所を指定します。

[次へ] をクリックします。[HP Client Automation ホスト名] ウィンドウが開きます。

7 この HPCA Server の名前を指定し、**[次へ]** をクリックします。[HP Client Automation Server ポート] ウィンドウが開きます。

— デフォルトのポートを承認するか、Web サーバーと Configuration Server ポートを指定します。

➤ HPCA の Standard および Starter Edition ではデフォルト ポートを変更できません。

— オプションとして、自動的にポート 3464 および 3466 を有効にしたい場合は、**[これらのポートを通して通信できるように Windows ファイアウォールを変更してください]** を選択します。詳細については、20 ページの「必須ポート」を参照してください。

[次へ] をクリックします。HP Client Automation の [インストール確認] ウィンドウが開きます。

8 これが、セットアップ プログラムの実行中に指定した値を確認できる最後の機会であり、これらの値がインストールに適用されます。

— これらの値を変更するには、**[前へ]** をクリックします。

— **[次へ]** をクリックして続行します。

標準の「ファイルを転送しています」ウィンドウが表示されます。インストール プログラムによって実行される設定スクリプトは、終了までに 5 分ほどかかる場合があることに注意してください。

9 入力を促す画面が表示されたら、**[完了]** をクリックします。HP Client Automation サーバーがインストールされました。

HPCA コンソールが自動的に開き、デフォルトのブラウザにログイン ウィンドウが表示されます。

10 ログイン ウィンドウで、デフォルトのユーザー名、パスワード、およびディレクトリ ソースを指定し、**[サインイン]** をクリックします。

➤ Satellite インストールではディレクトリ ソースを要求しません。

— デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

➤ HP は、デフォルトのユーザー名とパスワードを変更することをお勧めします。変更するには、HP Client Automation コンソールの設定パネルで **[アクセス コントロール]** -> **[ユーザー]** の順に選択し、[ユーザー] 領域の **[新しいユーザーの作成]** アイコンをクリックします。

— **ゾーン : HP** は、内部ユーザーが保存されている、HPCA 内部ディレクトリ ストアです。追加のディレクトリ サービスを追加し、認証の設定を行うと、このドロップダウンに表示されます。

➤ HPCA の Starter および Standard edition ではディレクトリ ソースの値を変更できません。

11 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

➤ 初回セットアップ ウィザードが表示され、HPCA 環境の初期設定を求められます。HPCA を使用しながら、HPCA コンソールのさまざまなパネルでこれらの設定を調整できます。

HPCA Server 名を求められた際には、常に完全なドメイン名を指定します。この方法により、「下位」の Satellite および HPCA Agent をインストールした際、適切なサーバーへ確実にマッピングされるようになります。

12 HP が発行した製品固有のライセンス ファイルの内容をコピーしたら、[ライセンス データ] ボックスにペーストし、**[次へ]** をクリックしてデータベース ソース パネルへと進みます。

➤ この時点でライセンスにペーストしない場合は、Client Automation Standard Edition の一時的な評価ライセンスが生成され、使用されます。このライセンスでは、コンソールの機能に制限があります。

HPCA Satellite インストール プログラムによって [アップストリーム サーバー] ウィンドウが表示されます。[アップストリーム ホスト] フィールドには、テキストのホスト名と IP アドレス (標準 IP アドレス形式) を使用できます。有効なアップストリーム ホストを指定してから **[次へ]** をクリックして、[ライセンス] ウィンドウへと進みます。ここに Satellite のアップストリーム サーバーからのライセンス情報が設定されます。

13 既存の ODBC データベース接続を使用するか、新規作成するかを選択します。[次へ] をクリックして [データベース設定] パネルに進みます。

> 2 番目のオプションである **[新しいデータベースを作成して、設定します。]** は、SQL Server データベースのユーザーにのみ適用されます。Oracle ユーザーは、既存の ODBC データベース接続を使用する必要があります。

14 各種必須フィールドに適切な値を指定してデータベース設定を行い、**[次へ]** をクリックして [サービス] パネルへと進みます。

15 この HPCA Server が提供する HPCA サービスを選択します。

> このウィンドウに表示されているサービスは、HPCA 環境用の推奨サービスですが、ここで必ず有効化する必要はありません。HPCA コンソールの設定パネルで後から設定できます。

16 **[次へ]** をクリックします。指定した設定が保存されます。

17 **[完了]** をクリックします。

HPCA コンソールでこれらのサービスを設定する方法についての詳細は、*HP Client Automation ユーザー ガイド*の「設定」の章を参照してください。

HPCA のドキュメント

Core のインストール時には、メディアに格納されている HPCA のドキュメントもインストールされます。これらのドキュメントは PDF 形式で格納されており、Windows の **[スタート]** メニュー、デスクトップ上のショートカット、および `http://HPCA_Host:3466/docs` で Core Server マシンにアクセスし、任意のデバイスからブラウザを使用して閲覧できます。ここでの *HPCA_Host* は、HPCA がインストールされているサーバーの名前です。

HPCA Satellite Server の無人設定

「無人」設定機能を使用すると、HPCA 管理者は Satellite Server インストールでの設定をキャプチャし、その後の Satellite Server インストール時にその設定を適用することができます。これにより、HPCA 管理者は次のことができるようになります。

- 複数の Satellite Server に対して設定を複製する (複数の Satellite に対して同一の設定を複数回指定する必要がない)
- 変更の影響をすべての Satellite インストールに与えることなく、特定の Satellite Server を対象とした最小限の変更が可能。

無人設定の機能

無人 Satellite Server の設定は、XML ファイルで実行され、それによって管理者はインストールの一部としてサーバーに適用される各種設定を指定することができます。XML ファイルを使用すると、HPCA 管理者は次のことができるようになります。

- Satellite での HPCA サービスの有効化と無効化
- HPCA ポリシー サーバー用の LDAP 設定
- アップストリーム ホストの設定とポート設定
- SSL サーバー設定
- インストール時間の短縮

XML ファイル

Satellite Server インストールの無人設定の各設定内容は、事前設定された XML ファイル `unattended.xml` に格納されています。この機能を活用するには、次の手順を行います。

1. XML ファイルの取得
2. XML ファイルのカスタマイズ
3. XML ファイルの適用

XML ファイルのサンプルが、39 ページの「XML 設定ファイルのサンプル」に記載されています。

XML ファイルの取得

XML ファイルは HPCA メディアには含まれていません。インストール完了後に Satellite Server からダウンロードする必要があります。このセクションでは、XML ファイルの取得方法について説明します。

このセクションで説明する「取得」の別の方法は、設定を取得したり設定するコマンドによる方法です。この方法については、39 ページの「GET および SET 設定のコマンドライン」に記載されています。

この方法により、ファイルの設定がカスタマイズされるのを防ぎます。自動的にファイル内のすべての設定を取得し、インストールの一部として Satellite に自動的に適用します。

HPCA Server から XML ファイルを取得するには

1. HPCA Satellite Server をインストールします (32 ページの「HPCA Server のインストール」を参照)。
2. **初回セットアップ ウィザード**を完了します (手順 11(34 ページ) を参照)。
3. インターネット ブラウザを開き、アドレス バーに次のように入力します。
   - HPCA Server の場合 : **`localhost:3466/sm/config`**

   Wget などの任意のダウンロード ユーティリティを使用して XML ファイルをダウンロードします。これにより、現在の Satellite に対する設定の、書き込みが可能な XML 出力 (必要に応じてコピーやカスタマイズが可能) が提供されます。

設定ファイル `unattended.xml` は、将来の Satellite Server のインストール用の設定パラメータの設定に使用できます。

Satellite インストール用の無人設定ファイルを使用する場合、プロンプトはすでに設定ファイルで指定されているため、初回セットアップ ウィザードを省略することができます。

しかしこの機能は、`servermanager` サービス名で設定ファイル内に設定しておく必要があります。例については、39 ページの「XML 設定ファイルのサンプル」を参照してください。

XML ファイルのカスタマイズ

XML ファイルは、お使いの環境における Satellite 用の各種設定パラメータを指定するため、コピーやカスタマイズすることができます。例えば、XML ファイルの複数のコピー (それぞれに個別の識別名が付いた) を作成して、異なる Satellite インストールで使用できます。

XML ファイルを Satellite インストール用にカスタマイズするには

1 `unattended.xml` を通常どおりにコピーしてペーストします。

2 複製したファイルの名前を変更します。

3 複製したファイルを開き、後から Satellite インストールに適用できる各種設定をカスタマイズします。

4 ファイルを保存して閉じます。

Satellite インストールが実行される際、正しい `.xml` ファイル (`UNATTENDEDFILE` プロパティが `setup.ini` にある) が参照されるようにしてください。次のセクション XML ファイルの適用 を参照してください。

XML ファイルの適用

カスタマイズされた XML ファイルは、Satellite インストールに特定の設定オプションを適用するために参照できます。

XML ファイルを Satellite インストールに適用するには

1 `setup.ini` を開きます。

2 `UNATTENDEDFILE` を正しい場所に置きます。

3 Satellite Server 用の設定パラメータを含む `.xml` ファイルの名前を指定します。

➤ `.xml` ファイルが `setup.exe` と同じディレクトリ内にない場合、完全なパスとファイル名を指定します。

4 ファイルを保存して閉じます。

5 `setup.exe` を実行してインストールを開始します。

インストールでは `setup.ini` を読み取り、それにより、`.xml` の設定ファイルから設定を読み取ります。この Satellite にあらかじめ設定された *アップストリーム サーバー*および *HPCA サービス*設定が適用されます。

アクティビティ ログ

このセクションで説明している方法で Satellite インストールを実行後、`config.log` ファイル(`Console\logs` 内) を使用すると予期せぬ問題を解決できます。

GET および SET 設定のコマンドライン

XML ファイル内にある設定を自動的に取得および適用する場合は、次の TCL コマンドを使用します。

自動の「取得と適用」アクションです。設定をカスタマイズすることはできません。

設定をカスタマイズする場合は、36 ページの「XML ファイル」に記載されている 3 段階 (取得 / カスタマイズ / 適用) の手順を使用する必要があります。

```
exec ./nvdkit.exe "C:/Program Files/Hewlett-Packard/HPCA/
ApacheServer/apps/console/sm.kit/bin/config.tcl"
%XMLFILEPATH%
```

XML 入力 (上記のコマンドの **%*XMLFILEPATH*%**) はオプションです。サーバー設定の GET リクエストの場合は省略できます。

しかし、サーバー設定の SET も実行する場合はこのパラメータを含める必要があります。

XML 設定ファイルのサンプル

次に示すのは、Satellite Server から取得できる XML 設定ファイルのサンプルです。このサンプル設定 (またはそのサブセット) を使用して、Satellite Server の設定を指定できます。サンプル ファイルの後、43 ページの表 1 でファイルの設定について説明します。

XML 設定ファイルのサンプル コンテンツ

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<ServerManager>
  <configuration>
    <upstream>
     <server>upstream.local</server>
```

```
  <port>3466</port>
  <ssl>false</ssl>
</upstream>
<ssl>
  <enable>true</enable>
  <certificates>
   <server>-----BEGIN CERTIFICATE-----
   MIIC8DCCAlmgAwIBAgIBADANBgkqhkiG9w0BAQUFADBfMQswCQYDVQQGEw
   JVUzELMAkGA1UECBMCTkoxEDAOBgNVBAcTB1BhcmFtdXMxCzAJBgNVBAoT
   AkhQMQswCQYDVQQLEwJDQTEXMBUGA1UEAxMOZ2FsdmF0cm9udmlzdGEwHh
   cNMDgwODA4MTk0MTUzWhcNMzUxMjI0MTk0MTUzWjBfMQswCQYDVQQGEwJV
   UzELMAkGA1UECBMCTkoxEDAOBgNVBAcTB1BhcmFtdXMxCzAJBgNVBAoTAk
   hQMQswCQYDVQQLEwJDQTEXMBUGA1UEAxMOZ2FsdmF0cm9udmlzdGEwgZ8w
   DQYJKoZIhvcNAQEBBQADgY0AMIGJAoGBAL9rzRQu6GUH8qCm7xDzCzOiD0
   t2SfyoOU0ecpqtYULNjmYJVH99URaIVA92tpB5OQjuvzQi7A4FB2bLs+Eh
   YyGiKbIJCXzT8EvErS01aZEEdlXPUBHDbXda3mQgWskRyoRVJctLlo8eVS
   phX96uej4aI6/88Gpk0IriexcJCgrJAgMBAAGjgbswgbgwDAYDVR0TBAUw
   AwEB/zAdBgNVHQ4EFgQUe+EwtBZfpTl5GvYpfvW+mMxq9HcwgYgGA1UdIw
   SBgDB+gBR74TC0Fl+lOXka9il+9b6YzGr0d6FjpGEwXzELMAkGA1UEBhMC
   VVMxCzAJBgNVBAgTAk5KMRAwDgYDVQQHEwdQYXJhbXVzMQswCQYDVQQKEw
   JIUDELMAkGA1UECxMCQ0ExFzAVBgNVBAMTDmdhbHZhdHJvbnZpc3RhggEA
   MA0GCSqGSIb3DQEBBQUAA4GBAAlH2cIreSrAgLjNJqh90ITlp5DFJuEILv
   1RiCpEC3FpKWhZSf7mbHLpOOK8d1sAqV7NSe8Peg+tDEtncimzS7UCUrtm
   n4fwPeb9zIO9h6H8rsxM6J0hHSTYAhqFZQTpdskGXhyHZVNoRNR1pacSGQ
   I6/KPd825GnOx4CEv4K2mm
   -----END CERTIFICATE-----</server>
   <private>-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
   MIICWwIBAAKBgQC/a80ULuhlB/Kgpu8Q8wszog9Ldkn8qDlNHnKarWFCzY
   5mCVR/fVEWiFQPdraQeTkI7r80IuwOBQdmy7PhIWMhoimyCQl80/BLxK0t
   NWmRBHZVz1ARw213Wt5kIFrJEcqEVSXLS5aPHlUqYV/erno+GiOv/PK0tB
   qZNCK4nsXCQoKyQIDAQABAoGADMFTLggeJjVMXpYhEgEP+wXOfRnJvlM7V
   j80Jcht1bS6y2PNxJ0GHTlCWLFxYtkhCs5V4VR+ZETDhH8IYnUGFOcUc+e
   c2PtMR/9IeMuO1usfGjAj4xg4Dun3StagzjefKbuDaYwaCneFLEYwqA/C1
   1ssY3ziiToqNDWQ9t9hh/ECQQDt1xm7NglZAotPdbgIq3jAjLm3OdDPWcD
   Goy9xKgGZRQkpLDaOoeqaw0JV2Dg0UW1b2v7htB2LqX9Ee59Afio9AkEAz
   glgqxt2SRXF4Ghm7ZHsxTr1TUCQjiATFRG2mB1Tbw+hlntOib6ecWscbm2
   qjmO5HjQisuNOY9Ne34bMlqLHfQJAMBFB3QkduISAHS4AZJgrDlcijXo8z
   jsob7y5MNi5e/1szYpm+EqW/HIr7OeG7GPsgxzuWDUrp3c5BmEpnUIiTQJ
   Aevuv/xKqXV+ouJW48o/LA8N4jr8+SgetPENReaTvm3h6HIfHzoLAsrSby
   PKe/tVZt0SpfZweu4l8tPIShsvtRQJANQXhHf3ci8WXLwHrFnOioaSvjjc
   nH6/wMUiUkcIZgN9Gu+1z5wKR6cxOCHhxSCfaho7WZF3bq55jc59VU/2hm
   w==
```

```
    -----END RSA PRIVATE KEY-----</private>
    <cacertificates>-----BEGIN CERTIFICATE-----
    MIIC8DCCAlmgAwIBAgIBADANBgkqhkiG9w0BAQUFADBfMQswCQYDVQQGEw
    JVUzELMAkGA1UECBMCTkoxEDAOBgNVBAcTB1BhcmFtdXMxCzAJBgNVBAoT
    AkhQMQswCQYDVQQLEwJDQTEXMBUGA1UEAxMOZ2FsdmF0cm9udmlzdGEwHh
    cNMDgwODA4MTk0MTUzWhcNMzUxMjI0MTk0MTUzWjBfMQswCQYDVQQGEwJV
    UzELMAkGA1UECBMCTkoxEDAOBgNVBAcTB1BhcmFtdXMxCzAJBgNVBAoTAk
    hQMQswCQYDVQQLEwJDQTEXMBUGA1UEAxMOZ2FsdmF0cm9udmlzdGEwgZ8w
    DQYJKoZIhvcNAQEBBQADgY0AMIGJAoGBAL9rzRQu6GUH8qCm7xDzCzOiD0
    t2SfyoOU0ecpqtYULNjmYJVH99URaIVA92tpB5OQjuvzQi7A4FB2bLs+Eh
    YyGiKbIJCXzT8EvErS01aZEEdlXPUBHDbXda3mQgWskRyoRVJctLlo8eVS
    phX96uej4aI6/88Gpk0IriexcJCgrJAgMBAAGjgbswgbgwDAYDVR0TBAUw
    AwEB/zAdBgNVHQ4EFgQUe+EwtBZfpTl5GvYpfvW+mMxq9HcwgYgGA1UdIw
    SBgDB+gBR74TC0Fl+lOXka9il+9b6YzGr0d6FjpGEwXzELMAkGA1UEBhMC
    VVMxCzAJBgNVBAgTAk5KMRAwDgYDVQQHEwdQYXJhbXVzMQswCQYDVQQKEw
    JIUDELMAkGA1UECxMCQ0ExFzAVBgNVBAMTDmdhbHZhdHJvbnZpc3RhggEA
    MA0GCSqGSIb3DQEBBQUAA4GBAAlH2cIreSrAgLjNJqh90ITlp5DFJuEILv
    1RiCpEC3FpKWhZSf7mbHLpOOK8d1sAqV7NSe8Peg+tDEtncimzS7UCUrtm
    n4fwPeb9zIO9h6H8rsxM6J0hHSTYAhqFZQTpdskGXhyHZVNoRNR1pacSGQ
    I6/KPd825GnOx4CEv4K2mm
    -----END CERTIFICATE-----</cacertificates>
  </certificates>
</ssl>
<license>
  <data>[MGR_LICENSE] ...</data>
</license>
<services>
  <service name="multicast">
    <enable>false</enable>
  </service>
  <service name="cs">
    <enable>true</enable>
  </service>
  <service name="osm">
    <enable>false</enable>
  </service>
  <service name="mms">
    <enable>false</enable>
  </service>
  <service name="tftp">
    <enable>false</enable>
  </service>
```

```
      <service name="pxe">
        <enable>false</enable>
      </service>
      <service name="cache">
        <enable>true</enable>
      </service>
      <service name="policy">
        <enable>false</enable>
          <database>
           <type>ldap</type>
           <server>hp.local</server>
           <port>389</port>
           <user>Administrator@hp.local</user>
           <password>{AES256}3gMlspmbrGbqVXNPDx8tWg==</password>
           <config>
            <attr name="basedn">dc=hp,dc=local</attr>
           </config>
          </database>
      </service>
      <service name="servermanager">
        <config>
          <attr name="already.configured">1</attr>
        </config>
      </service>
     </services>
  </configuration>
</ServerManager>
```

43 ページの表 1 で、XML Satellite 設定ファイルの設定について説明します。

表 1　　XML ファイル設定

設定	説明
attr name	この XML ファイルの別の領域に適用されない追加設定を指定するパラメータ。
certificates	この Satellite Server の SSL 証明書情報 (サーバー、プライベート キー、証明書) を表示する領域を表します。 さまざまな種類の証明書とその機能についての詳細は、『*HP Client Automation SSL Implementation Guide*』を参照してください。
config	親タイプでカバーされない設定を指定する汎用コンテナ領域の開始を表します。
configuration	カスタマイズ可能な設定を開始します。
data	HPCA Configuration Server edmprof ファイルから読み取ることができるライセンス文字列テキスト。
database	データベース設定を指定する領域の開始を表します。
enable	リストされている機能または HPCA サービスのオン / オフスイッチ。有効な値は **true** および **false** です。
license	HPCA 製品ライセンス設定を指定する領域の開始を表します。
password	直前のユーザー ID (**user** タグ) と関連付けられるパスワード。
port	この Satellite がアップストリームの HPCA Server と通信するポート。
server	HPCA データベースが常駐するこの Satellite のアップストリーム HPCA Server。

表 1　　XML ファイル設定

設定	説明
service name	HPCA サービスの名前。 注意 : servermanager サービス (attr name が「**already.configured**」で値が「**1**」) を使用して、Satellite の無人インストール時の初回セットアップ ウィザードをスキップしてください。
services	追加 HPCA サービスを指定、および有効化 / 無効化する領域の開始を表します。
ssl	Satellite のアップストリーム HPCA Server との SSL ベースの通信のオン / オフ スイッチ。有効な値は **true** および **false** です。 また、SSL 設定オプションが設定される領域の開始。
type	データベースのタイプ。有効な値は **sql** および **ldap** です。
upstream	この Satellite のアップストリーム サーバー (HPCA データベースを収容する) 用の設定を指定する領域の開始を表します。
user	サーバーへアクセスするユーザー名。

サイレント インストール

このセクションでは、HPCA Core Server のサイレント インストール (44 ページの「構文」や 46 ページの「例」など) について説明します。

サイレント インストールは Core Server のみでサポートされています。Satellite Server ではサポートされていません。

構文

Core サイレント インストール用の構文 :

msiexec.exe /I "*fully qualified path to Core MSI file***" /lv* "***fully qualified path to installation log repository***" INSTALLDIR="***fully qualified path to installation directory***" DATADIR="***fully qualified path to data directory***" /qn**

構文の注意事項

- この構文のキーワードと値では、大文字と小文字が区別されます。

  キーワードには「大文字 (記載されているとおり) 」、値には適切な文字を指定するようにしてください。

- Core Server のインストール メディア、インストール ログ リポジトリへのディレクトリ パスはフルパスである必要があります。

  ディレクトリ パスにスペースが含まれている場合は、パス全体を引用符で囲む必要があります。

- 存在しないインストール ログ ディレクトリ パスが指定された場合、インストールは失敗します。

- 構文内の **qn** は、サイレント インストールの指示です。

  コマンド ラインから GUI インストールを開始するには、構文の **qn** を **qb** に変えます。

サイレント インストールは Satellite Server ではサポートされていません。

構文パラメータの説明

サイレント インストール構文パラメータは次のとおりです。

- **INSTALLDIR** (オプション): デフォルトでは、Core は `C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA` にインストールされます。別のインストール ディレクトリを指定することもできます。

- **DATADIR** (オプション): デフォルトでは、Core のデータ ファイル (プロキシ キャッシュと HPCA Configuration Server Database) は `C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Data` にインストールされます。別のディレクトリを指定することもできます。

- **UPSTREAMHOST** (Satellite インストールのみ): この Satellite がデータを受信するアップストリーム Core Server (または Satellite) のホスト名または IP アドレスのいずれかを指定します。たとえば、**coreserver.domain.com** のようになります。

- **UPSTREAMPORT** (オプション、Satellite インストールのみ): デフォルトでは、この Satellite Server はアップストリーム ホストとの通信にポート 3466 をリスンします。別のポートを指定することもできます。

例

以下は、Core Server 用の有効なサイレント インストール コマンドのサンプルです。

```
msiexec.exe /i "Setup-Core\HPCACore.msi" /lv* "C:\Program
Files\Hewlett-Packard\HPCA\install.log"
DATADIR="C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Data" /qn
```

INSTALLDIR は指定されておらず、デフォルトの値が使用されることに注意してください。

Satellite Server インストール (MSI) ファイルへのパスは **Setup-Satellite\HPCASatellite.msi** です。

結果

「例」セクションに記載されたサイレント インストール コマンドは以下をインストールします。

- Core Server をデフォルトの場所 (`C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA`) へ。
- データ ファイルを `C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Data` へ。
- インストール ログを `C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA` へ。

Setup.exe ファイル

Core Server は、`setup.exe` ファイルを使用してサイレント インストールすることもできます。このファイルはこのセクションに記載されているとおり、カスタマイズしてから実行できます。

インストールを setup.exe ファイルで実行するには

1. HPCA メディアにあるすべての HPCA インストール ファイルをハード ドライブにコピーします。
2. `setup.ini` ファイルを開いて編集し、保存します。
3. `setup.exe` を実行します。

HPCA の削除

サーバーから HPCA を削除するには、HPCA インストール プログラムを使用します。

HPCA を削除するために Windows コントロール パネル アプレット **[プログラムの追加と削除]** を使用する場合、一部のファイルやフォルダ (ディレクトリ `C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA`、および最初のインストール後に追加または変更されたファイルなど) がサーバー上に残るため、手動で削除する必要があります。

HPCA を削除するには

1 HPCA メディアの **HPCACore.msi** をダブルクリックします。

2 **[このコンピュータから HP Client Automation Core を削除する]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

> Satellite Server を削除する場合は、手順 1 と 2 の「Core」への参照を「 Satellite 」に置き換えてください。

3 削除の確認メッセージが表示されたら、**[次へ]** をクリックします。

HPCA がサーバーから削除されます。

HPCA の修復

サーバーの HPCA を修復するには、HPCA インストール プログラムを使用します。

HPCA を修復するには

1 HPCA メディアの **HPCACore.msi** をダブルクリックします。

2 **[このコンピュータの HP Client Automation Core ファイル、レジストリ値、およびショートカットを修復する]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

> Satellite Server を修復する場合は、手順 1 と 2 の「Core」への参照を「 Satellite 」に置き換えてください。

3 修復の確認メッセージが表示されたら、**[次へ]** をクリックします。

HPCA がサーバー上で修復されます。

データ キャッシュ 事前読み込み用に Satellite を設定する

デフォルトでは、お使いの環境の Satellite には RPS_*satellite_hostname* の ID が割り当てられています。これにより、管理者は Satellite へ配布される (**事前に読み込まれる**) データ リソースを定義する Core Server データベースのエンタイトルメント ポリシーを確立することができます。Satellite がアップストリーム ホストと同期化される度に事前読み込みが起動されます。

Satellite の事前読み込みエンタイトルメントのポリシーは以下を定義します。

- 同期化の実行時に Satellite のキャッシュ場所に読み込まれるデータ リソース。
- リソースを配布する場所。(デフォルトでは、アップストリームのホスト サーバーです。)

Core CSDB を使用して、事前に読み込まれる Satellite ごとに Satellite のキャッシュの要求ステート ポリシーのエンタイトルメントを作成します。これは、Satellite のインストールおよび設定の前後に行うことができます。

次のセクション 48 ページの「Satellite ID」では、Satellite Server の ID の変更方法について説明します。この方法は、その後のセクション 49 ページの「データ キャッシュの事前読み込み用のエンタイトルメント ポリシーの作成」で役立ちます。

Satellite がインストールおよび設定された後、同期化ジョブを作成して、データ同期、設定、またはその両方をスケジュールすることができます。詳細については、「*Enterprise の管理*」の章 (『HP Client Automation Enterprise ユーザー ガイド』または HPCA コンソール ヘルプ) を参照してください。

Satellite ID

すべての Satellite は、RPS_*satellite_hostname* という同じデフォルト ID でインストールされます。RPS_*satellite_hostname* の ID は、異なる命名規則に対応するためカスタマイズすることができます。

Satellite の ID をカスタマイズするには

1 Satellite サービス (HPCA Satellite) または HPCA Apache Server サービスを停止させます。これにより、Satellite コンソールが無効化され、設定ファイルの修正中にコンソールで修正ができないようになります。

2 `InstallDir\ApacheServer\apps\proxy\etc` に移動し、テキスト エディタで Satellite Server の設定ファイル `proxy.cfg` を開きます。

3 次の行を探します。

```
<cms-identity>RPS_satellite_hostname</cms-identity>
```

4 `RPS_`*satellite_hostname* の値を次のような任意の ID に変更します。

```
<cms-identity>RPS_PARISSAT3_EN</cms-identity>
```

> 重要な注意
> ID の値にピリオド (ドット) を使用しないでください。この文字は CSDB で制限されています。CSDB のインスタンス名を作成する際に使用できる文字のみを使用してください。
> 詳細については、*Admin ユーザー ガイド*を参照してください。

5 変更を保存し、`proxy.cfg` を終了します。

6 手順 1 で停止した HPCA サービスを再起動します。これにより変更が反映されます。

フォローアップ

この新しい Satellite ID を Core Server の CSDB 内の POLICY.USER ドメインに追加します。これで、次のセクションで説明しているとおり、新しい POLICY.USER インスタンスをアプリケーションに (直接または間接的に) 付与できるようになります。

詳細については、『Application Manager および Application Self-Service Manager ガイド』の「エンタイトルメント ポリシーを実装する」の章にも記載されています。

データ キャッシュの事前読み込み用のエンタイトルメント ポリシーの作成

このセクションで説明しているタスクは、Core Server 上で実行され、以下でアクセスできる HPCA Admin CSDB Editor の基本的な理解が必要です。

- **[スタート]** メニューから、**[プログラム]** > **[HP Client Automation Administrator]** > **[Client Automation Administrator CSDB Editor]** の順に選択します。

  ツリー ビュー (左パネル) で、階層構造アイコンをダブルクリックして、その下の構造にアクセスします。

このセクションの HPCA Admin CSDB Editor タスクは以下のとおりです。

- データ キャッシュの事前読み込み用のエンタイトルメント ポリシーを作成するには
- WORKGROUP インスタンスがすべてのデータベース アプリケーションを事前に読み込むように設定するには
- POLICY.USER RPS インスタンスを POLICY.WORKGROUP インスタンスに接続するには

Satellite での Windows インストール アプリケーションの事前読み込みに関する特別な考慮事項については、『*HP Client Automation Proxy Server Installation and Configuration Guide*』(*Proxy Server ガイド*) の「Preloading Windows Installation Applications」を参照してください。

データ キャッシュの事前読み込み用のエンタイトルメント ポリシーを作成するには

このセクションの手順を続行する前に、前のセクション「Satellite ID」の情報を確認することをお勧めします。

このタスクには、エンタイトルメント ポリシーの作成方法に関する基本的な理解が必要です。詳細については、『Application Manager および Application Self-service Manager ガイド』の「エンタイトルメント ポリシーを実装する」の章にも記載されています。

1. HPCA Admin CSDB Editor を開き、Satellite の ID と一致する PRIMARY.POLICY.USER インスタンスを作成します。

   すべての Satellite には `RPS_`*satellite_hostname* というデフォルトの ID が付けられています。別のエンタイトルメント ポリシーに対応するため、この ID をカスタマイズすることができます (前のセクション 48 ページの「Satellite ID」で説明したとおり)。

2. POLICY.USER インスタンスを、Satellite のデータ キャッシュに事前に読み込ませるアプリケーションのセットに接続します。

   必要に応じて、『Application Manager および Application Self-service Manager ガイド』の「エンタイトルメント ポリシーを実装する」の章を参照してください。

複数の Satellite が同じアプリケーション セットを事前に読み込む必要がある場合は、すべてのアプリケーションを含む「workgroup」インスタンスを作成する必要があります。詳細は WORKGROUP インスタンスがすべてのデータベース アプリケーションを事前に読み込むように設定するにはを参照してください。

WORKGROUP インスタンスがすべてのデータベース アプリケーションを事前に読み込むように設定するには

この例では、POLICY.WORKGRP インスタンスを使用して、Satellite を利用可能なすべてのアプリケーションに事前に読み込みます。事前読み込み WORKGRP インスタンスによって、その Satellite に割り当てられている HPCA Agent で通常必要とされるアプリケーション セットを指定する必要があります。

1 HPCA Admin CSDB Editor を開き、PRIMARY.POLICY ドメイン内に新しい WORKGRP インスタンスを作成します。

   a **WORKGRP** を右クリックし、ポップアップ メニューから **[インスタンスを新規作成]** を選択します。

      [インスタンスの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。空白にすると、表示名はデフォルトでインスタンス名に設定されます。

   b [インスタンス名] フィールドに **`HPCA_SAT_PRELOAD_APPS`** などの名前を入力し、**[OK]** をクリックします。

      このインスタンスの HPCA_ prefix がツリー ビュー内に表示され、インスタンスの完全な名前がリスト ビューに表示されます。

2 インスタンスを編集して _ALWAYS_ Offers フィールド値を手動で追加し、すべてのアプリケーションが Satellite Server 上で事前に読み込むようにします。

   a ツリー ビューの **Workgroups (WORKGRP)** クラスをクリックします。

   b リスト ビューの **HPCA_Sat_Preload_Apps** をダブルクリックします。

   c リスト ビューの一番上にある _ALWAYS_ 属性をダブルクリックします。

   d [インスタンスを編集しています] ダイアログ ボックスに、次の Offers 値を入力します。

      `SOFTWARE.ZSERVICE.*`

   e **[OK]** をクリックします。

3 Satellite Server の PRIMARY.POLICY.USER インスタンスを、次のセクション POLICY.USER RPS インスタンスを POLICY.WORKGROUP インスタンスに接続するには で説明されている方法で、この PRIMARY.POLICY.WORKGRP インスタンスに接続します。

   ➤ ユーザーをグループへ割り当てる方法についての詳細は、『Application Manager および Application Self-service Manager ガイド』の「エンタイトルメント ポリシーを実装する」の章を参照してください。

POLICY.USER RPS インスタンスを POLICY.WORKGROUP インスタンスに接続するには

1 HPCA Admin CSDB Editor を開始し、PRIMARY.POLICY.USER クラスに移動します。

2 **USER** をダブルクリックしてクラス インスタンスを表示します。

3 WORKGRP インスタンスに接続される **RPS**_*satellite_hostname* USER インスタンスを右クリックし、ポップアップ メニューから [接続を表示] をクリックします。

4 POLICY.CONNECTIONS ダイアログ ボックスで、**Workgroups** の一覧をダブルクリックします。

HPCA_Sat_Preload_Apps がすべての Workgroup インスタンスの CSDB Editor リスト ビュー内に表示され、POLICY.USER クラスがツリー ビュー内で開きます。

5 リスト ビュー (右パネル) から、HPCA_Sat_Preload_Apps WORKGRP インスタンス アイコンをツリー ビューの選択した RPS_*satellite_hostname* USER インスタンスへドラッグします。

➤ 選択した USER.RPS_*satellite_hostname* インスタンスをマウスオーバーすると、カーソルがペーパークリップの形に変わります。ペーパークリップは接続が有効であることを意味します。

6 RPS_*satellite_hostname* インスタンスの HPCA_Sat_Preload_Apps アイコンを「ドロップ」(マウス ボタンを離す) して接続を完了します。

[接続属性の選択] ダイアログが開き、選択したインスタンス間で接続が確立することを示します。

7 [接続属性の選択] ダイアログ ボックスの **[コピー]** をクリックして、_ALWAYS 接続を完了します。

8 **[はい]** をクリックして接続を確認します。

事前読み込みをテストするには、Satellite コンソールの同期化オプションを使用します。事前読み込み後に [オペレーション] ページのキャッシュ サイズが変更されます。

手動による HPCA Administrator インストール

Core Server をホストするマシン以外に HPCA Administrator をインストールするには、手動でインストールを実行する必要があります。以下のセクションに記載されているいずれかの方法を使用して手動インストールを実行します。

- 53 ページの「インストール プログラムを使用して HPCA Administrator をインストールするには」

- 53 ページの「Software 発行者サービスを使用して HPCA Administrator をインストールするには (Starter および Standard ユーザー)」

インストール プログラムを使用して HPCA Administrator をインストールするには

1 HPCA Administrator をインストールするデバイスで、HPCA メディアの Media\admin\default\win32 ディレクトリを開き、**setup.exe** (または .msi ファイル) をダブルクリックします。

  [ようこそ] ウィンドウが表示されます。

2 インストールを開始するには、**[次へ]** をクリックします。[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。

3 ライセンス契約を読んで承諾し、**[次へ]** をクリックします。

4 インストール ディレクトリを選択して、**[次へ]** をクリックします。

5 HPCA Core Server の IP アドレスまたはホスト名を入力します。デフォルトのポート 3464 は変更しないでください。

6 **[次へ]** をクリックします。[ライセンス ダイアログ] ウィンドウが表示されます。

7 **[ブラウズ]** をクリックして、HPCA エディションのライセンス ファイルを選択します。

8 **[次へ]** をクリックします。[機能の選択] ウィンドウが表示されます。

9 インストールする機能を選択して、**[次へ]** をクリックします。

10 **[インストール]** をクリックしてインストールを開始します。

11 インストールが完了したら、**[完了]** をクリックします。

Software 発行者サービスを使用して HPCA Administrator をインストールするには (Starter および Standard ユーザー)

1 Management Agent を配布して、ターゲット デバイスを管理します。

2 Software 発行者サービスをデバイスに付与します。最初にグループにそのデバイスを追加してから、エンタイトルメントを割り当てます。

3 HPCA ソフトウェア ライブラリで利用可能な Software 発行者サービスを配布します。

  配布してから、Software 発行者サービスを使用して、ソフトウェアや HP Softpaq、BIOS 設定、OS イメージ サービスをパブリッシュできます。

HPCA を使用して Windows オペレーティング システムを管理する

HPCA では、オペレーティング システム (OS) を管理するために Microsoft Windows Automated Installation Kit (AIK) の次の 2 つのユーティリティを使用します。

- `bootsec.exe` ユーティリティは、Windows パーティションのブート セクターを修復します。
- `imagex.exe` ユーティリティは、配布用にファイル ベースのディスク イメージをキャプチャ、変更、適用するために使用します。

HPCA を使用して Windows オペレーティング システムを管理する予定の場合は、HPCA Core をホストするマシン上に Windows AIK をインストールする必要があります。また、これらのユーティリティのコピーが適切な場所に配置されていることを確認する必要があります。

Windows AIK は Microsoft ダウンロード センター (`http://www.microsoft.com/downloads/ja-jp/default.aspx`) からダウンロードできます。

Windows AIK がデフォルトの場所にインストールされていることを確認します。

`C:\Program Files\Windows AIK`

HPCA Core をインストールする前に Windows AIK をインストールすることをお勧めします。

シナリオ 1 – HPCA のインストール前に、Windows AIK がデフォルトの場所にインストールした場合

必要な操作はありません。ユーティリティは、HPCA のインストール時に必要な場所に自動的にコピーされます。

シナリオ 2 – HPCA のインストール後に、Windows AIK がデフォルトの場所にインストールした場合

[OS 管理] ([設定] タブ → [OS 管理] → [設定] ページ) が有効になっていることを確認し、HPCA Core サービスを再起動します。

ユーティリティは、HPCA Core サービスの起動時に自動的にコピーされます。

シナリオ 3 – Windows AIK がデフォルト以外の場所にインストールした場合

Windows AIK インストールから `bootsec.exe` および `imagex.exe` を HPCA Core Server の次のディレクトリに手動でコピーします。

InstallDir`\OSManagerServer\OSM\SOS\winpe\utilities\Program Files`

この場合、*InstallDir* は HPCA がインストールされる場所です。デフォルトでは、これは、`C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA` です。

詳細については、『HPCA OS Manager System Administrator ユーザー ガイド』の「オペレーティング システムのキャプチャの前提条件」を参照してください。

アウトバンド管理

HPCA OOBM を有効にして使用する場合は、次の注意事項を確認してください。

- HPCA Server のインストールまたはアップグレードを行う場合で、後から使用するために OOBM 設定とデータ ファイルを保持したい場合は、ファイルのバックアップと復元を行う移行スクリプトを使用する必要があります。

  移行と復元についての詳細は、『*HP Client Automation Starter and Standard Migration Guide*』(`Docs\migrate` の配布メディアに格納されています) を参照してください。

- vPro デバイスと HPCA OOBM を正常に連携させたい場合は、Intel AMT **Setup and Configuration Service** (**SCS**) をインストールおよび設定する必要があります。

  — **SCS** は Windows 2003 Server (32 ビット) オペレーティング システムでのみサポートされており、HPCA コンポーネントを収容する別のマシンにインストールすることができます。

  — HPCA コンポーネントを Windows 2008 Server プラットフォーム上にインストールした場合は、**SCS** を別のサーバーにインストールする必要があります。

  — HPCA OOBM 機能をアクティブ ディレクトリへ統合するよう選択した場合、アクティブ ディレクトリ ドメイン コントローラを Windows 2003 Server (32 ビット) オペレーティング システムにインストールする必要があります。

  詳細については、『HPCA アウトバンド管理ユーザー ガイド』および最新の Intel SCS ドキュメントを参照してください。

Windows サービス

インストール後、HPCA Core サービスは `HPCA Core` として Windows サービスにリストされ、開始モードが「自動」に設定されます。このサービスは HPCA Core の内部のため、Core の実行中は停止しないでください。

HPCA Satellite Server がインストールされると、そのサービスである `HPCA Satellite` も自動的に Windows サービスにリストされ、開始モードが「自動」に設定されます。このサービスは HPCA Satellite の内部のため、Satellite の実行中は停止しないでください。

HPCA サービスの他に、HPCA Server と一緒にさまざまなサブサービスが自動的にインストールされます。これらには「HPCA」のラベルがついているため、Windows サービスで簡単に識別できます。これらのサブサービスの開始モードは「手動」です。

HP は、サービス間の依存性のため、これらのサブサービスの停止や開始には、コンソールのみを使用することをお勧めします。HPCA Core サービスまたは Satellite サービスを停止すると、サブサービスも自動的に停止します。

3 HPCA の機能

この章では、次の HPCA 機能とコンポーネントについて理解することを目的としています。

- 58 ページの「HP Client Automation Core」
- 62 ページの「HP Client Automation Satellite」
- 66 ページの「HP Client Automation の機能」
- 70 ページの「HP Client Automation コンポーネント」

HP Client Automation Core

HP Client Automation Core (**Core**) サーバーは、HP Client Automation 環境用のデータのプライマリ リポジトリです。すべての設定情報と管理対象コンテンツの信頼できるソースです。

Core Server には、企業コンソール機能、コンテンツ取得サブシステム、パッチ管理、適用状況管理、セキュリティ ツール管理、設定管理、および脆弱性管理機能が含まれます。また、サードパーティ製システムの統合ポイントでもあります。Core はすべての従属的な (「下位」) コンポーネントに対する中央管理ポイントと、設定やステータスのレポート情報を提供します。

Core には、次の下位コンポーネントがあります。

- **Satellite Server**
  環境全体のサーバー マシンにインストールされ、HTTP 経由で Core と通信します。Satellite は Core に従属しますが、下位の HP Client Automation Agent の管理では Core の支援を行います (62 ページの「HP Client Automation Satellite」を参照してください)。
- **Agent**
  環境全体のユーザー デバイスにインストールし、これらのデバイスを HP Client Automation アーキテクチャの制御下に置き、設定やステータスを Core で管理できるようにします。

Core は直接下位のエージェントに接続したり、Satellite を経由することができます。

➤ Core は直接下位の HP Client Automation Agent に接続できますが、Hewlett-Packard は、非常に小規模のビジネス環境を除き、この方法をお勧めしません。HP は、HPCA Enterprise ライセンス環境の場合、最低 1 台の Satellite を常に使用することをお勧めします。

HP Client Automation 環境での Core

企業コンピューティング インフラストラクチャには、次のいずれかの機能を持たせることができます。

- 1 台の Core Server を直接エージェントに接続して処理する (Enterprise ライセンスなどの大企業環境ではお勧めしません)。

- 1 台の Core Server を、(中継地点として動作して) Agent にサービスを提供する複数の下位の Satellite サーバーに接続する。

サーバーとエージェント間の構築は、インフラストラクチャの規模とニーズに基づいて行ってください。

Core の機能

フロントエンド上で、Core は、Satellite とエージェントの関係の一部としてユーザー インターフェイス コンソールをホストします。Core のバックエンド機能には、外部とサードパーティ製システムとの相互作用が含まれます。

Core の通信

HP Client Automation Core は、下位の Satellite サーバーまたは HPCA Agent のいずれかと通信します。これらの通信の種類や目的はさまざまであり、次の内容で構成されています。

- 下位のサーバーとデータ キャッシュの同期化。
- HP Client Automation Configuration Server Database (CSDB) と下位サーバーの同期化。
- ポリシー解決の要求。
- OS デバイス ステータスの要求。
- サーバーおよびエージェント内のアクティビティのステータスを提供する情報メッセージ。

Core に必要なポートとデフォルトのポートについての詳細は、20 ページの「通信ポート」を参照してください。

HPCA Core Server コンポーネント

Core Server インストール プログラムは、デフォルトで、次に示す HPCA コンポーネントのすべてをインストールします。これらのコンポーネントは事前に設定されており、インストール時やインストール後は最低限の情報だけが必要となります。

HP は、このガイドに特に記載されていない限り、Core やコンポーネント設定の修正を行わないことをお勧めします。

Core Server 独自のコンポーネント

次のコンポーネントは Core Server 独自のものであり、Satellite Server にはインストールされていません。

- HPCA コンソール
- Messaging Server
- Patch Manager Server
- Knowledge Base Server
- Application Usage Manager Administrator
- Portal
- Reporting Server

次の表は、自動的に Core Server にインストールされる HPCA コンポーネントの一覧です。各コンポーネントの主な機能についても記載しています。

表 2　HPCA Core コンポーネントと特徴的な機能

Core コンポーネント	**機能**
Configuration Server	デバイスの要求ステート情報を設定および維持します。
Configuration Server Database (*信頼できるリポジトリ*)	要求ステートの設定を階層構造に格納します。Core Server 上のマスター CSDB は、Satellite Server 上の複製された CDSB の信頼できるリポジトリ元です。
Distributed Configuration Server (送信元)	Core Server 上で、CSDB の下位に複製された送信元を対象となる Satellite CSDB に対して定義します。
HPCA コンソール	企業内のステータスを表示できる、Web ベースのエージェント管理ツールです。ソフトウェア、パッチ、インベントリとお使いの環境でのデバイス用ポリシーを管理することができます。
Messaging Server	HPCA Agent で報告されたデータを、適切なレポーティング データベースやサーバー (Inventory、Portal、Patch Manager、Risk Management、Inventory and Application Management Profile データなど) に振り分け投稿します。

表 2　　HPCA Core コンポーネントと特徴的な機能

Core コンポーネント	機能
Multicast Server	1 つのデータ ストリームを複数の HPCA Agent へ同時送信します。
OS Manager Server	HPCA Agent デバイスのオペレーティング システムを提供および管理します。
Patch Manager Server	(Microsoft) ベンダーのセキュリティ パッチとブリティンを取得、パブリッシュ、配布します。
Knowledge Base Server	KB Server は、SQL Server または Oracle Database に状態ファイルの形式のデータを提供します。状態ファイルは、アプリケーションの現在の状態を示すデータで構成されます。こうしたデータは、KB Server によって、継続的に監視されているユーザー指定のディレクトリ、つまり、収集ポイントから取得されます。この収集ポイントでデータが検出されると、自動的にデータベースに転送されます。
Application Usage Manager Administrator	AUM Administrator では、利用状況レポートの作成に使用するデータを選択できる規則を作成できます。このコンポーネントは、管理者のワークステーション (推奨) または Knowledge Base Server を収容するコンピュータにインストールします。
Policy Server	ディレクトリ サービスを使用してポリシーを実装します。
Portal	Web ブラウザを通じてエージェントを配布したり、インフラストラクチャを管理するのに使用される Web サービスで、OS Manager 管理用です。
Reporting Server	統合レポート用に複数の SQL データベースのデータにアクセスする Web ベースのレポート ツールです。 Patch Manager、Usage Manager、Inventory Manager、Application Management Profiles、Risk Management へのレポートの提供に使用されます。
Thin Client Server	Windows CE Thin Client 上のエージェントを管理します。

HP Client Automation Satellite

HP Client Automation Satellite (**Satellite**) は、すべての HP Client Automation Agent 用の HP Client Automation インフラストラクチャへのアクセス ポイントとしての役割を果たします。Satellite は、Core Server に依存して従属します (58 ページの「HP Client Automation Core」を参照)。

Satellite は、Core とエージェントの中継点です。一般的な企業コンピューティング環境では、パフォーマンスを強化し、**Wide Area Network** (**WAN**) への影響を最低限に抑えるために、エージェントへの「ネットワーク近接」に配置されます。使用する Satellite の台数に制約や制限はありません。インフラストラクチャの規模、範囲、およびトポグラフィーに基づいて必要に応じて管理者が使用法を決定します。

Satellite をアップストリームの Core Server と同期化させることで、管理者は複数階層の環境を考案することができます。

Satellite がエージェントに提供するサービスは次のとおりです。

- エージェントの保守
- データ配信
- サービス カタログ
- サービス配信
- サービス レポート

Satellite には、*修復可能な*情報のみが含まれます。従って Core Server または アップストリームの Satellite と同期化させることで、いつでも再構築および回復することができます。

Satellite は次のように設定できます。

- フルサービス モード
  ユニキャストとマルチキャストを介した大容量データ配信サービスに加え、設定サービス (HP Client Automation Configuration Server) を提供することができます。
- ストリームライン モード
  大容量データ サービスや OS プロビジョニングで必要な OS 設定サービスを提供できます。設定サービスを提供するというよりは、エージェントを、要求を満たすために設定されたアップストリームの Satellite や Core に差し向けます。

最善実践に関する注意事項

HP は、HP Client Automation 管理者が *Satellite Server 上*にある CSDB に対して変更を*加えない*ことをお勧めします (データベースの変更には、HP Client Automation Administrator CSDB Editor 管理機能とパブリッシュが含まれます)。

Satellite Server の CSDB はアップストリーム サーバー (Core または別の Satellite のいずれか) のメタデータの複製であり、このレベルでの任意のデータベースの変更はそのアップストリーム サーバーとの次回の同期化で失われる可能性があります。

Satellite の通信

Satellite は、Core Server や別の Satellite Server のいずれかとアップストリーム通信を行います。これらの通信の種類や目的はさまざまであり、次の内容で構成されています。

- データ キャッシュの同期化。
- CSDB の同期化。
- ポリシー解決の要求。
- OS デバイス ステータスの要求。
- Satellite とその HP Client Automation エージェントとの間のアクティビティのステータスを提供する情報メッセージ。

Satellite に必要なポートとデフォルトのポートについての詳細は、20 ページの「通信ポート」を参照してください。

HPCA Satellite Server コンポーネント

Satellite Server インストール プログラムは、デフォルトで、次に示す HPCA コンポーネントのすべてをインストールします。これらのコンポーネントは事前に設定されており、インストール時やインストール後は最低限の情報だけが必要となります。

HP は、このガイドに特に記載されていない限り、コンポーネント設定の修正を行わないことをお勧めします。

次の表は、自動的に Satellite Server にインストールされる追加 HPCA コンポーネントの一覧です。各コンポーネントの主な機能についても記載しています。

表 3　HPCA Satellite コンポーネントと特徴的な機能

コンポーネント	用途
Configuration Server	企業のデバイスおよびエージェント コンピュータに対する要求ステートの設定と管理。
Configuration Server Database (CSDB) (*複製*)	要求ステートの設定を階層構造に格納します。Satellite CDSB は常に、アップストリームの Core や Satellite Server から複製されます。 注意 : Satellite Server にある HPCA CSDB を変更しないでください。HPCA CSDB はアップストリーム サーバー (Core または別の Satellite のいずれか) の複製であり、このレベルでの任意のデータベースの変更はそのアップストリーム サーバーとの次回の同期化で失われる可能性があります。
Distributed Configuration Server (ソースとデスティネーション)	ターゲットとして、Core CSDB をこの Satellite の CSDB に複製します。 ソースとして、この Satellite の CSDB を下位の Satellite CSDB に複製します。
Enterprise Proxy Server	HTTP 上のキャッシュ管理を使用して、アプリケーション データを保存したり動的に伝送します。
Multicast Server	1 つのデータ ストリームを複数の HPCA Agent へ同時送信します。
OS Manager Server	HPCA Agent デバイスのオペレーティング システムを提供および管理します。
Policy Server	既存の、非 HPCA ディレクトリ サービスを使用してポリシーを実装します。
Thin Client	Windows CE Thin Client 上のエージェントを管理します。

HPCA Server 通信ポート

このセクションでは、HPCA Server が他の HPCA 製品との通信用に使用するポートについて説明します。これらのポートは、マシン上でローカルにのみ使用でき、実装の詳細はサーバー専用です。

HPCA Server には、他の HPCA 製品との実行可能な通信に必要なデフォルトのリスン ポートがありますが、設定や機能によって別のポートでもリスンできるように設定できます。サーバーが他の HPCA 製品との通信を行うデフォルトのポートは次の一覧のとおりです。

太字の項目は、Core Server に固有のアドレスとポートの組み合わせを表しています。

表 4　　HPCA Server 通信ポート

IP アドレスとポート	ポートタイプ	HPCA 製品
127.0.0.1:3461	TCP	HPCA Messaging Server (`nvdkit-hpca-ms.exe`)
0.0.0.0:3464	TCP	HPCA Configuration Server (`ZTOPTASK.exe`)
0.0.0.0:3466	TCP	HPCA Apache Server (`httpd.exe`)
127.0.0.1:3467	**TCP**	**HPCA Patch Server (`nvdkit-hpca-patch.exe`)**
127.0.0.1:3468	TCP	HPCA Policy Manager (`nvdkit-hpca-pm.exe`)
127.0.0.1:3469	TCP	HPCA OS Manager (`nvdkit-hpca-osm.exe`)
0.0.0.0:3466	UDP	HPCA OS Manager (`nvdkit-hpca-osm.exe`)
127.0.0.1:3470	TCP	HPCA Mobile Messaging Server (`nvdkit-hpca-mms.exe`)
127.0.0.1:3471	**TCP**	**HPCA Portal (`nvdkit-hpca-rmp.exe`)**
127.0.0.1:3472	TCP	HPCA Multicast Server (`nvdkit-hpca-mcast.exe`)
2xx.0.0.0:9100	UDP	HPCA Multicast Server (`nvdkit-hpca-mcast.exe`)
127.0.0.1:3473	TCP	HPCA Distributed Configuration Server (`nvdkit-hpca-dcs.exe`)
127.0.0.1:3474	**TCP**	**HPCA DS (`slapd.exe`)**

IP アドレスとポート	ポートタイプ	HPCA 製品
127.0.0.1:3476	TCP	HPCA (`hpca.exe`)
127.0.0.1:3477	**TCP**	**HPCA Tomcat (`tomcat.exe`)**
127.0.0.1:3478	**TCP**	**HPCA Tomcat (`tomcat.exe`)**
127.0.0.1:3479	**TCP**	**HPCA データベース (`mysqld-nt.exe`)**

HP Client Automation の機能

HP Client Automation で利用できる機能は、Starter、Standard、および Enterprise Edition のどのエディションを使用しているかによって異なります。表 5 には、各ライセンス エディションで利用可能な機能の概要を表す一覧を掲載しています。

表 5　　ライセンス別の HPCA の機能比較

HPCA の機能	Starter	Standard	Enterprise
タスクベースの自動化	x	x	
ポリシーベース、要求ステートの継続的なオートメーション			x
リモート制御デバイス	x	x	x
アセット情報 (ハードウェアとソフトウェアのインベントリ)	x	x	x
HP ハードウェア管理	x	x	x
HP ハードウェア警告	x	x	x
HP Softpaq の取得と配布	x	x	x
OS イメージの配布	Thin Client のみ	x	x
ユーザー設定の移行	x	x	x

表 5　　ライセンス別の HPCA の機能比較

HPCA の機能	Starter	Standard	Enterprise
ソフトウェア配布	Thin Client のみ	x	x
ソフトウェア利用状況の測定		x	x
OS パッチ管理、検証および修復		x	x
HP ProtectTools 管理 (TPM)	x	x	x
アウトバンド管理 (Intel vPro(R) および DASH)	x	x	x
コンプライアンスと脆弱性スキャン、およびダッシュボード			x
HP Live Network (有料サービス)		x	x
HP Operations Orchestration for Workflow Automation との統合			x
Application Management Profiles			x
Settings Management Profiles		x	x
スケーラビリティ	<10,000	<10,000	>10,000
サポートされるクライアント OS プラットフォーム (デスクトップ、ノートブック、ブレード)	Windows	Windows	Windows、Linux、MacOS
HP Thin Client OS プラットフォーム (Windows CE、Windows XPe、HP ThinConnect、HP ThinPro、Debian Linux)	x	x	x
HPCA Enterprise への移行パス	x	x	なし

次のリストの項目では、HPCA で利用可能な機能の一部について説明します。

- ハードウェアとソフトウェアのインベントリの収集
  管理対象の HP デバイス (BIOS 設定情報を含む) で利用可能。デバイスで収集されたインベントリ情報は、中央コンソールで表示できます。レポートツールでは、データを詳細にまたはグラフィック表示で表示します。簡単にフィルタ処理をして、特定の条件にマッチするデバイスを表示できます。

- Thin Client 管理
  Windows XPE、CE および Embedded Linux を実行している HP Thin Client デバイスにオペレーティング システムとソフトウェアを配布できます。Thin Client デバイスとは、主にセントラル サーバーに依存してアクティビティの処理を行ってもらうクライアント コンピュータのことです。HP では、さまざまな Thin Client デバイスのモデルを提供しています。

- リモート コンテンツ管理
  リモート オフィスの通信を促進するために、HPCA ではリソースを提供する Satellite Server を展開できます。これにより、クライアント デバイスは、速度がより遅いワイド エリア ネットワーク接続からリソースを取得する代わりに、よりローカルなソースからそのリソースを取得できます。

- ハードウェア警告のレポート
  デバイスは、ファンが故障している、シャーシが開いているなどのハードウェア警告をクライアント デバイス、または中央コンソールにレポートするように一元的に設定できます。HP **Client Management Interface** (**CMI**) を使用して、他のハードウェア コンポーネントが影響を受ける前に、管理者は、修復する必要があるシステムを確認できます。

- **Softpaq** 管理
  HPCA では、ある環境のデバイスに適用できる Softpaq を自動的に取得したり、BIOS、デバイス ドライバまたは HP が提供するアプリケーションの更新にデバイスが Softpaq を必要とするかどうかを判断して、デバイスに Softpaq を配布したりできます。これらはすべて中央コンソールから実行できます。コンソールのレポート領域では、取得して適用可能などの Softpaq が、デバイスに適用されたか、まだ適用されていないかに関する情報を提供します。

- **BIOS** 管理
  この機能では、BIOS の保護、デバイスでの起動順序の調節、Wake-on-LAN の有効化、または他の BIOS 設定の調節を行うため、パスワードを使用できます。HP Client Automation は、環境の HP デバイスに対する現在の BIOS 設定を判断し、希望の設定になるように BIOS 設定を更新できます。

- **ProtectTools** 管理
  ProtectTools セキュリティ設定ができます。

- リモート管理
  管理者は、コンソールの統合リモート コントロール機能を使用して、問題が発生したデバイスを管理できます。リモート コントロールの他に、電源のオフ、デバイスの再起動や Wake-On-LAN などの、コンソール内蔵の電源管理機能が備わっています。

- アウトバンド管理
  アウトバンド管理 (OOB 管理) は Web ベースのリモート管理で、システム電力や OS の状態に関わらず、デバイス上でアウトバンド管理操作を行うことができます。詳細および利用手順は、『アウトバンド管理ユーザー ガイド』または HPCA コンソールに含まれているオンライン ヘルプを参照してください。

- **Personality Backup and Restore**
  ソース コンピュータからユーザー ファイルと設定をバックアップし、デスティネーション コンピュータへ復元します。

- インベントリ収集
  お使いの環境のハードウェアについての情報を収集できる機能です。

- ソフトウェアの配布
  環境内の管理対象デバイスへパッケージ化されたソフトを配布します。ソフトウェアは、ローカル接続またはリモート接続の PC に配布できます。デバイスが、ネットワーク上にあるが、配布ジョブが実行されたときに電源がオフになっている場合、配布プロセスの一部として、デバイスの電源をオンにすることができます。

- **OS** の配布
  サポートされる Windows オペレーティング システムを PC クライアント デバイスに配布します。オペレーティング システムはベア メタル デバイス (既存のオペレーティング システムではなく) またはサポートされる既存の Windows オペレーティング システムを現在実行しているデバイスに配布できます。

- **Microsoft** パッチ管理
  HPCA では、環境内の Microsoft パッチを管理できます。パッチは、Microsoft から自動的に取得します。取得の後、管理対象のデバイスは、パッチの適用状況を判断し、パッチがデバイスに配布可能になります。パッチが配布された後、パッチが対応しているセキュリティ脅威からデバイスが保護されていることが、定期的に確認されます。

- ソフトウェア利用状況の収集
  ソフトウェアの利用状況を収集できます。利用状況の情報を使用して、ライセンスの適用状況を判断したり、環境でどのソフトウェア ライセンスが必要であるかを判断できます。管理者は、HP Client Automation の利用状況管理追跡、レポート機能を使って、ソフトウェア ライセンスの数が多すぎないか、不十分ではないか、判断できます。

HP Client Automation コンポーネント

次のセクションには、各 HP Client Automation コンポーネントに関する概要が含まれます。

- 70 ページの「HP Client Automation コンソール」
- 70 ページの「HP Client Automation Agent」
- 71 ページの「HP Client Automation Administrator」
- 72 ページの「Image Preparation Wizard」

HP Client Automation コンソール

HP Client Automation コンソール (コンソール) は、HPCA 管理者がデバイス、ソフトウェア、OS、パッチを管理し、これらの管理対象デバイスに基づいたレポートを作成したり表示を行うために使用する Web インターフェイスです。

コンソールで利用可能な機能やタブは、インストールされている HPCA ライセンスと、コンソール ユーザーが所属するロール グループによって異なります。

それぞれが実行できる管理タスクが異なるため、コンソールのタブの配置はさまざまです。例えば、[レポート] タブでは [検索] オプションと [表示] オプションが左に表示され、レポート クエリの結果が右のワークスペースに表示されます。次の図は、[レポート] タブ ウィンドウの例です。

HP Client Automation Agent

HP Client Automation Agent は、インベントリ レポート、サービス配布、パッチ管理、利用状況の監視などのアクティビティ特有のプラグインを提供する管理対象デバイスです。

HPCA Agent は、HPCA 管理者が HP Client Automation によって管理する下位のクライアント レベル デバイスにインストールされます。インストールを行うと、対象のマシンは HPCA 環境の管理下に置かれ、**管理対象デバイス**となります。管理者は、HPCA Agent をデバイスに配布してから、そのデバイスまたはデバイスのグループにソフトウェアやパッチの付与とインストールを直接行います。

HP Client Automation Administrator

The HP Client Automation Administrator には、CSDB 内にソフトウェアをパッケージおよびパブリッシュしたり、Core データベースをナビゲーションするのに使用できるツールが含まれています。

HPCA Administrator は HPCA Core Server と一緒にインストールされます。

Administrator サービスを配布するか、HPCA メディアに格納されているインストール ファイルを使用して、Administrator を別の場所にインストールすることができます。

Starter および Standard ライセンスでは、Agent Explorer および Publisher にアクセスできます。これらの 2 つの機能に加え、Enterprise ライセンスでは CSDB Editor、Packager、Screen Painter および AMP Editor にアクセスすることができます。

Agent Explorer

Agent Explorer は HP Client Automation Administrator のコンポーネントで、Publisher と一緒にインストールされます。トラブルシューティングや問題の解決に使用します。HP サポートからの直接の指示がない限り、これを*使用しない*でください。

Publisher

Publisher では、ソフトウェア、OS イメージ、HP SoftPaq、および BIOS 設定をパブリッシュできます。正確な機能は、製品ライセンスによって異なります。

CSDB Editor

Configuration Server Database Editor (CSDB Editor) では、CSDB のコンテンツを検査し、操作することができます (Enterprise ライセンスでのみ利用可能)。

Packager

Packager はパッケージに含めるべきコンポーネントがよくわからない場合に、インストール モニタ モードと呼ばれるパッケージング方式を使用することができます。この方式では、ソフトウェアのインストールの前後にスキャンを実行します。2 つのスキャン結果の相違点がパッケージの内容になります (Enterprise ライセンスでのみ利用可能)。

Screen Painter

Screen Painter では、ダイアログ ボックスを設計し、作成できます (Enterprise ライセンスでのみ利用可能)。

AMP Editor

AMP Editor を使用すると、デスクトップ クライアントで一般的に必要とされるソフトウェア製品 (Microsoft Office 2007、Symantec Antivirus、および Citrix Presentation Agent など) を迅速に配布および管理できます。*HP Client Automation Application Management Profiles ユーザー ガイド*を参照してください (Enterprise ライセンスでのみ利用可能)。

Image Preparation Wizard

Image Preparation Wizard は、デバイス上でオペレーティング システムをローカルに準備して取得します。このウィザードは、HP Client Automation メディアから利用可能な、Image Preparation Wizard CD ISO の一部です。

詳細については、『HPCA OS Manager システム管理者ガイド』を参照してください。

4 HPCA アーキテクチャ

この章は以下を目的としています。

- HP Client Automation 環境の作成に必要な主なコンポーネント (Core Server 、Satellite Server 、Agent) について理解する。
- Core Server と Satellite Server の特徴的な役割を理解する。
- 大企業や分散型企業向けのサポートの拡大に利用可能な、さまざまな配布アーキテクチャについて理解する。

HPCA フレームワークの合理化

HPCA Core Server と Satellite Server (HPCA 7.20 リリース版で初めて導入) は、Client Automation 環境の構築と拡大に対し非常に単純で柔軟性のあるフレームワークを提供します。これにより任意の台数の HPCA Agent のニーズをお客様の環境で満たすことができます。Core Server と Satellite Server には決められた役割があるため、Client Automation 環境の構築には、3 つの主なコンポーネントが必要です。

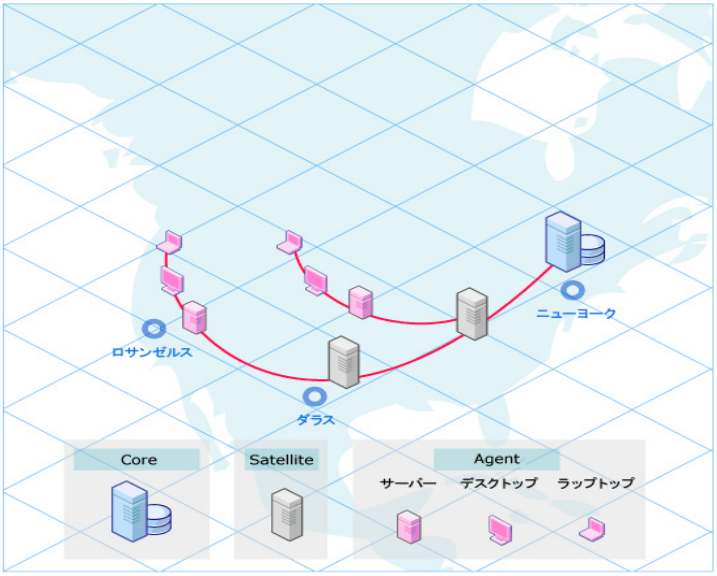
- Core
- Satellite
- Agent

HPCA 環境を人間の体に例えると次のようになります。

- Core はインテリジェンスを組み込んだ HPCA の「頭」や「脳」になります。信頼できる設定リポジトリや、統合されたレポート データベースを保存し、パッチ管理、適用状況管理、セキュリティ ツール管理、設定管理、および脆弱性管理のための外部取得ソースを持つインターフェイスをホストする大切なリソースです。
- Satellite は、Core の機能を拡張するための「手足」であり、複数のアクティビティを実行します。権限が付与されている場合、サイズと設定に応じて、Agent 解決、データ、または OS イメージ用のローカル ソースを提供します。
- Agent は管理対象デバイスに接触し、相互作用する「指」としての役割を果たします。

次の図は、これらの基本的な HPCA 環境の「構成要素」を表しています。

図 1　　一般的な HPCA 環境



インストール、ポート、サービスの統合化

Core Server や Satellite Server をインストールする際には、そのサーバーの役割に必要となるインフラストラクチャ サービス、コンソール、エンジンの統合セットをインストールします。インストール後の設定は、接続したい内部または外部データベースとディレクトリ サービスへの接続を確立するコンソールを介して適用されます。これらの統合サーバーをインストールすると、以下のような利点があります。

- コンポーネントのインストールと設定時間を最小限に抑えます。
- 公開ポート数が少なくて済みます。個別のコンポーネント ポート番号は内部になります。
- 簡単に Satellite Server の追加、設定、削除ができます。

Core Server には HPCA インフラストラクチャのフルセット (Satellite Server でインストールされる内容を含む) がインストールされますが、企業全体の Agent コンテンツの設定と管理を行うプライマリ リポジトリや信頼できるリポジトリ ソースであることが他とは異なる役割です。

Core または Satellite にインストールされるコンポーネント インフラストラクチャ サービスは、*HPCA Core サービス*、または *HPCA Satellite サービス*のいずれかの管理下ですべて実行されます。

次の表は、Core Server と Satellite Server にインストールされるインフラストラクチャ コンポーネント サービス セットのサンプルを表しています。Core Server 独自のものは、ほとんど無いことに注目してください。

表 6　　Core と Satellite のサービス サンプル

サービス	Core	Satellite
データ	X	
設定	X	X
Enterprise Manager	X	
マルチキャスト	X	X
メッセージング	X	X
OS	X	X
パッチ	X	
Knowledge Base Server	X	
ポリシー	X	X
Thin Client	X	X
脆弱性	X	
データ キャッシュ		X

統合ダッシュボードとレポートに使用される SQL Core とパッチ データベースは、Core にのみ常駐しています。

小規模の環境では、1 台の Core Server だけを設置し、制限された数の HP Client Automation Agent の管理に使用することができます。ただし、Satellite Server を追加すると Agent 管理のパフォーマンスが最適化されます。OS Manager のサポートの場合は Satellite をお勧めします。

Core の機能概要

HP Client Automation Core (**HPCA Core**) は、お使いのクライアントの管理に使用する設定パラメータ、ポリシーのエンタイトルメント、データ リソース (アプリケーションから OS イメージに対するパッチまで) をすべて維持する重要な*信頼できるリポジトリ*です。アクティビティのレポートや関連するすべての Satellite Server の集約された管理ポイントを提供します。Core には、パッチ管理、適用状況管理、セキュリティ ツール管理、設定管理、および脆弱性管理などのコンテンツ取得サブシステムがすべて含まれます。また Core は、HP、ISV、顧客独自の環境のサードパーティ製システムとの統合場所でもあります。顧客の Core Server の設置台数 (1 台または複数) は、要件によってことなります。

Core インストールにまとめられているコンポーネントのセットには、次の作業が必要なものがあります。

- 要求ステート情報の維持
- データ パッケージの保存
- ソフトウェア管理アクティビティの自動化
- 統合レポート データベースのホストと入力
- 独自のポリシー Active Directory (AD または LDAP ディレクトリ) などの外部ディレクトリ、または HP Live Network や Microsoft のブリティンとパッチのダウンロード用サイトのような管理対象コンテンツの取得に使用する外部ネットワークとの通信
- 下位の Satellite との通信
- 環境の管理

信頼できる設定リポジトリ

Core の不可欠な役割は、信頼できる設定リポジトリをホストすることです。これは、HP Client Automation で管理されるソフトウェア、パッチ、および OS イメージ用の設定情報を含む CSDB です。Core CSDB は、下位の Satellite CSDB すべてに対するソースです。

Configration Server と CSDB の詳細については、『HP Client Automation Configuration Server ユーザー ガイド (Configuration Server ガイド)』を参照してください。

Satellite の機能概要

HP Client Automation Satellite (HPCA Satellite) は、企業の Agent へのアクセス ポイントです。Satellite のコンテンツは、Core 上の信頼できるソースから常に複製されるため、Satellite には修復可能な情報だけが含まれています。したがって、Satellite を Core またはアップストリームの Satellite と同期化することで、いつでも Satellite を再構築したり復元したりすることができます。

お使いの HPCA 環境の拡張性を高めるため、さまざまな Satellite が一般的に使われています。Satellite は、Client Automation エージェントへの「ネットワーク近接」に配置されます (パフォーマンスを促進し、**Wide Area Network** (**WAN**) への影響を最小限に抑えるため)。

Satellite は、不変の情報の「マスター」ではありません。従って、Core Server やアップストリームの Satellite と同期化することで、いつでも再構築や復元することが可能です。

HP Client Automation Satellite は次のように設定することができます。

- フルサービス モード
  ユニキャストとマルチキャストを介した大容量データ配給サービスに加え、設定サービス (Configuration Server) を提供することができます。
- ストリームライン モード
  大容量データ サービスや OS プロビジョニングで必要な OS 設定サービスを提供できます。これは単に設定サービスを提供するのではなく、これらの要求を満たすように、サービス アクセス ポイントによって、Client Automation エージェントをアップストリームのフルサービス Satellite 、または Core Server に差し向ける必要があります。

HPCA Satellite は、別の Satellite Server か Core Server のいずれかとアップストリーム通信を行います。これらの通信の種類や目的はいろいろあり、次の内容で構成されています。

- 部分的、または全データのキャッシュの同期化
- CSDB の同期化
- ポリシー解決の要求
- OS デバイス ステータスの要求
- Satellite とその Client Automation エージェントによる管理アクティビティのステータスを報告するための情報メッセージ

柔軟性のある設定オプション

Core Server と Satellite Server は両方とも、コンポーネント サービスのカスタマイズや再設定を容易にするコンソールを提供します。例えば、特定の Satellite を専用 OS Manager Server として指定し、これらの Satellite 上での不要なサービスを無効化したい場合があります。

Satellite 配布モデル

Satellite を企業全体に設置し、必要な数のアクセスポイント分の Agent を提供することができます。エージェント数が限られている小規模な環境では、必要な Satellite は 1 台のみになります。より規模の大きい環境やより分散した環境では、お使いの Agent のパフォーマンス、容量、および可用性のニーズを満たすため、数台または多数の Satellite Server が必要となる場合があります。

- HPCA Satellite は、Client Automation エージェント用のアクセス ポイントです。
- Client Automation エージェントへのネットワーク近接により、WAN への作業負荷を軽減し、データ転送速度を上げ、信頼性を高めます。
- HPCA Satellite は、2 つのうちいずれかのモードで設定できます。
  - *フルサービス*: 設定サービスとデータ サービス、および OS 設定サービスを Client Automation Agent に提供します。
  - *ストリームライン*: 大容量データ サービスや OS 設定サービス、またはその両方を Client Automation Agent に提供します。
- HPCA Satellite は、別の HPCA Satellite や HPCA Core に対してアップストリーム通信を行います。

企業内に Satellite を設置する

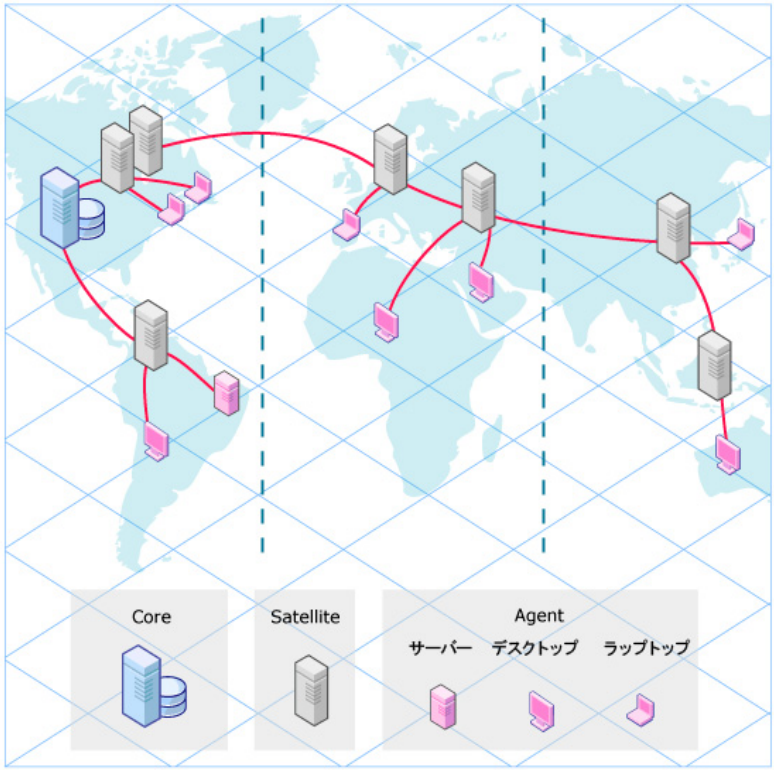
管理対象 Agent の要所となるネットワーク上に Satellite を配置します。Satellite は必要に応じて、横並びまたは縦並びに追加や配置することで、全体的なパフォーマンスを最適化します。貴社の環境のどこに、何台の Satellite を追加するのかを決定する要因には、次のようなものがあります。

- 容量 : 多数の Agent にサポートを拡大するには、大量の Satellite を追加します。

- 可用性 : Satellite を追加することで、サーバーの可用性を確保します。
- ネットワーク近接 : Satellite を追加することで、ネットワークのパフォーマンスを最適化します。例えば、御社の一部の支社、またはサイトでの帯域幅が制限されている場合、要所に追加の Satellite を配置することで、利用可能な帯域幅をより効率的に使用できるようにします。

大規模の環境では、Satellite を縦並びに増やし、Core 下に Satellite の層を複数重ねることができます。

図 2　　横並びと縦並びに増やされた Satellite



Satellite は自由自在に追加や削除することができます。リポジトリの内容はすべて Core から複製され、データ サービスは Core 上で利用することが可能なデータ サービスのサブセットです。より大きな規模、またはより分散した環境ほど、より多くの Satellite Server を検討したいと思われるはずです。

インストール後も、Satellite をフルサービスやストリームライン Satellite として設定できます。

フル Satellite やストリームライン Satellite の設定

フルサービス Satellite は、アップストリームの Core への要求を転送しなくても、Agent の要求をほとんどすべて独自で処理することができます。すべてのサービスは、有効にすることができます。これには次を含みます。

- 設定サービス：
  設定サービスには、Configuration Server と CSDB の複製バージョンが含まれています。これにより、Satellite は接続する Agent の要求ステートを解決することができます。ポリシー サービスは、Satellite からアクセスすることで Agent を解決するために、Active Directory などの外部ポリシー ディレクトリを有効化します。
- ポリシー サービス：
  ほとんどの HPCA Enterprise のお客様は、既存の LDAP ディレクトリを持ち、HPCA ポリシーのエンタイトルメントの保存にそれを活用することを希望します。ポリシー サービスは、Satellite から直接アクセスすることで Agent を解決するために、Active Directory などの外部ポリシー ディレクトリを有効化します。
- メッセージング サービス：
  Agent が報告したデータを自動的にアップストリーム サーバーへ転送します。このサービスは常に有効化され、無効化することはできません。
- データ キャッシュ サービス：
  データ キャッシュ サービスは、Agent にコンテンツを配信するため、ソフトウェア、パッチ、OS イメージ リソースのローカル キャッシュを保存します。データ キャッシュ サービスには、ユニキャストやマルチキャストを使用したコンテンツの配信機能が含まれています。マルチキャストでは、サービスを有効化する必要があります。
- OS Manager サービス：
  OS Manager サービスは、管理対象デバイスへ展開するための OS イメージのローカル キャッシュを保存します。
- Thin Client サービス：
  Windows CE Thin Client 上での Agent 管理に必要なサービスです。
- マルチキャスト サービス：
  複数の Agent へのデータ リソースの同時配信を可能にします。OS Manager イメージの配信に使用します。

ストリームライン Satellite には、無効化された機能が 1 つ以上あります。これは、ローカルに実現できない Agent 要求がアップストリームのフルサービス Satellite か Core に対して要求されることを意味します。例えば、ストリームライン Satellite は、次のようなことが考えられます。

- ソフトウェアやパッチ コンテンツを Agent にキャッシュおよび展開するのに主に使用される場合。このストリームライン Satellite のフットプリントは、フルサービス Satellite よりもかなり小さくなります。
- 設定サービスを無効化している場合。 ローカルの設定サービスを有効化せずに、Satellite は希望するステート解決のための Agent 要求を、アップストリームの Core やフルサービス Satellite に転送します。
- OS Manager、Thin Client、マルチキャスト サービスが有効化または無効化されている場合。

Core および Satellite のメタデータとデータの同期化

Core の CSDB をエージェント用の設定モデルとポリシーのエンタイトルメントで入力した後、Core のメタデータとデータを、Satellite Server 上に読み込む必要があります。Satellite コンソール上の同期化タスクは、Core の設定 (メタデータ) とリソース データを企業全体の Satellite に移動するのに使用されます。

御社の環境に複数階層の Satellite がある場合、アップストリーム ホストとして Core Server を使用している Satellite が、第一層の Satellite として認識されます。第一層の Satellite から同期化タスクを使用して、コンテンツを Core と同期化します。そして、次の階層の Satellite にある同期化タスクを使用して、コンテンツをアップストリームの Satellite ホストと同期化します。御社内のすべての Satellite の階層に対してこの方法を使用し、企業全体の Satellite を同期化します。

同期化 (同期) 操作の後に次のことを行います。

- Core とフルサービス Satellite は、同一のメタデータ、または設定、ポリシー、管理対象データについての情報を共有します。
- Core とストリームライン Satellite は、管理対象データ (ソフトウェア、パッチ、OS イメージ) の同一リソース キャッシュを共有します。

階層化アーキテクチャの例

次の例では、HPCA Enterprise 環境を設定して、複数の地域で大量の Agent を処理できるようにするほか、次が可能になります。

- Application Manager Agent を使用して必須データを管理します。
- HPCA コンソールを使用してセキュリティ脆弱性を発見および報告します。
- Patch Manager HPCA Agent 機能を使用して、ベンダー ソフトウェア パッチを分析および管理します。
- 既存の外部 LDAP ディレクトリ サービスを使用して、ポリシーのエンタイトルメントを作成します。
- Satellite を使用して、企業全体のデバイスの設定管理を配信します。
- 対象デバイスの要所となるネットワーク上にストリームライン Satellite を配置します。

この分散型環境をサポートするために、Core Server と 2 階層の Satellite Server が簡単に使用できます。

1. Core Server をインストールします。これにより、必要な Configuration Management と CSDB、Enterprise Manager、Patch Manager、Knowledge Base Server、メッセージング、レポート、Policy Server コンポーネントが自動的にインストールされます。

   Core コンソール設定のタブを使用して次の設定をします。

   — ディレクトリ サービス : ポリシーのエンタイトルメントの定義に使用される外部の Active Directory への接続。

   — パッチ : Microsoft または Linux のパッチのパッチ取得およびパッチ配布を設定します。

   また、HPCA コンソールを使用して、HP Live Network の設定を完了します。HP Live Network は自動的に脆弱性管理用の OVAL 定義を取得するのに使用されます。

2. Satellite Server をインストールして、ネットワーク全体でデバイスの設定管理を配信します。

   — Core をアップストリーム サーバーに指定します。

   — 設定サービスとデータ キャッシュ サービスに対して Satellite を完全に有効化した状態にします。

— 既存の外部 LDAP ディレクトリ サービスのポリシー情報にアクセスするには、この外部ディレクトリをポリシー用にアクセスできるように Satellite を設定します。

3 追加の Satellite をデバイスの近くにインストールして、HPCA で管理されるようにします。

— フル サービス Satellite をアップストリーム サーバーに指定します。

— これら Satellite を設定して、設定サービスとすべての OS Manager サービスを無効にします。

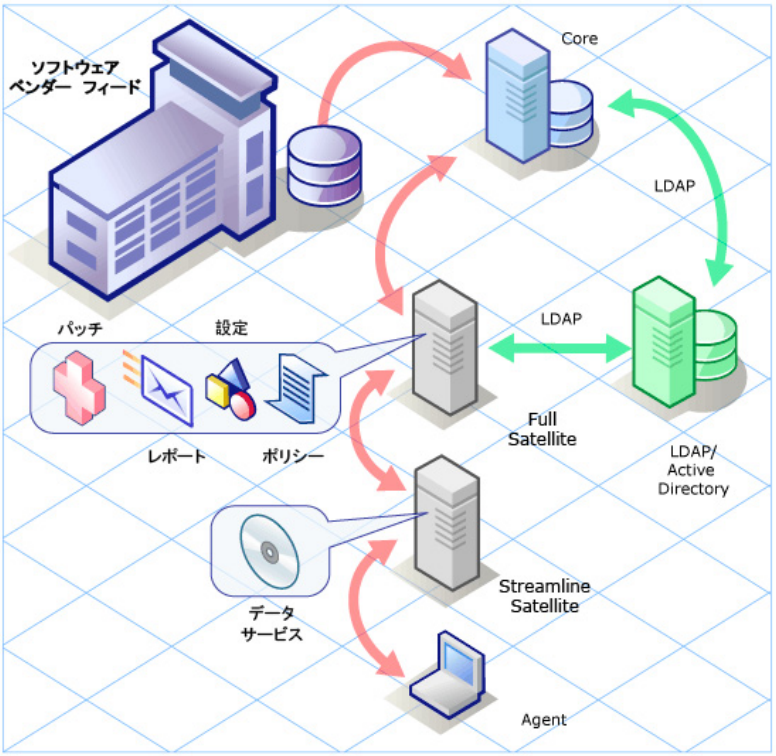
— データ リソースを有効にしておきます。

4 Application Manager と Patch Manager のプラグイン付きの Agent を御社のデバイスに展開します。

5 クライアント オペレーション プロファイルを定義して、御社の環境内の適切な Satellite にエージェントを接続します。

6 ネットワーク図は、下の図のようになる場合があります。

図 3　　アプリケーションとパッチの管理環境



この段階では、アーキテクチャのすべての部分が配置されます。

ソフトウェアのパブリッシュとコンテンツ取得

次の手順は、以下のとおりです。

1. Administrator Publisher を使用して、管理対象のソフトウェアを Core CSDB にパッケージ化し、パブリッシュします。
2. Patch Manager Administrator を使用して、管理対象のパッチを Core CSDB にパブリッシュするよう取得を実行します。
3. コンソールを使用して、設定プロファイル、脆弱性、適用状況、およびセキュリティ ツールの HP Live Network の最新の更新を取得します。

ポリシーのエンタイトルメントの追加

1 Admin CSDB Editor を使用して、要求ステートを構築するための設定情報を追加します。

2 コンソールを使用して、Agent デバイスにソフトウェア、パッチ、脆弱性発見サービスを設定するポリシーを追加します。

Satellite とアップストリーム ホストを同期化します。

1 第一層のフルサービス Satellite から Satellite 同期化の操作を実行します。

2 第二層のストリームライン Satellite から Satellite 同期化の操作を実行します。

エージェント接続

スケジュール、通知、HPCA Self-service Manager アプリケーションでエージェント接続を開始します。これらのトピックスについての詳細は、『HP Client Automation Enterprise Manager ユーザー ガイド』または『HP Client Automation Application Manager および Application Self-service Manager インストールおよび設定ガイド』を参照してください。

5 HPCA Enterprise 機能ビュー

この章は以下を目的としています。

- セキュリティと適用状況管理のためのコンポーネントと情報を理解する。
- パッチ管理のためのコンポーネントと情報を理解する。
- OS イメージのキャプチャ、配布および管理に使用するコンポーネントとプロセスを理解する。

セキュリティと適用状況管理ビュー

HP Client Automation では、企業の管理対象クライアントのセキュリティと適用状況に関する問題を検知し、関連するリスクの重大度と範囲を迅速に評価できるセキュリティと適用状況管理のソリューションを提供しています。その後、これらの問題を修正する手順を実行できます。

HPCA は利用可能な最新のセキュリティ脆弱性情報を追跡、選別および分析する有料サービスの HP Live Network と統合されています。手動プロセスに依存するのではなく、定期的に HP Live Network から新しいセキュリティと適用状況管理のコンテンツを自動的にダウンロードするように HPCA を設定できます。このコンテンツには、クライアント用のスキャナと、セキュリティの脆弱性、適用状況ベンチマーク、セキュリティ ツールについての詳細情報 (修正ソリューション案など) が含まれます。

次に HP Live Network コンテンツは Core Server の Configuration Server Database (CSDB) にパブリッシュされ、指定したスケジュールに従って管理対象クライアントのをスキャンできます。

HPCA コンソールは、企業の状況を一覧で表示するセキュリティ ダッシュボードと適用状況管理ダッシュボードを提供します。また、企業全体で迅速にパッチポリシー コンプライアンスを評価するのに役立つパッチ管理ダッシュボードと、長期にわたり HPCA が実行してきた操作の数と種類を表示するための HPCA オペレーション ダッシュボードもあります。

企業での管理対象エージェント向けのセキュリティと適用状況管理の提供についての詳細は、『HP Client Automation Core および Satellite ユーザー ガイド』を参照してください。

図 4　　例 : HPCA における脆弱性管理

凡例 :

1 HP Live Network チームが更新された脆弱性をダウンロードして分析します。

2 HPCA が HP Live Network から更新された脆弱性とスキャナをダウンロードします。

3 HPCA が管理対象クライアントの脆弱性をスキャンします。

パッチ管理ビュー

Core Server の Patch Manager Server と Patch Publisher は、自動パッチ取得に提供され、セキュリティ ブリティンとサービス パックをパブリッシュします。

Patch Management アーキテクチャとプロセスには、パッチ脆弱性を保存してレポートする Patch Manager SQL データベースが必要です。

Patch Management は、Core Server にのみインストールされる Patch Manager Server に依存します。Patch Manager Server の役割は次のとおりです。

- ベンダーの Web サイトからパッチを取得します。
- PRIMARY.PATCHMGR ドメインへパッチをパブリッシュします。
- パッチ情報と Patch Manager SQL データベースを同期化させます。
- Patch Manager Agent の更新を、自動的に取得、パブリッシュ、配布します。

HPCA を使用してお使いの環境の管理対象エージェントへパッチ管理を提供する方法についての詳細は、『HP Client Automation Patch Manager インストールおよび設定ガイド』を参照してください。

パッチ取得とパブリッシュ

取得時には、以下の処理が行われます。

1. ブリティンを取得するため、ベンダーの Web サイトに接続します。
2. セキュリティ ブリティンとサービス パック、および (オプション) 実際のパッチ ファイルについての情報がダウンロードされます。ダウンロードされた情報には、影響を受けるファイル、再起動要件、プローブ情報など、各パッチに関する詳細データが含まれます。
3. 取得される各ブリティン用の XML ファイルが作成されます。これは、Patch Manager Server ディレクトリ内のベンダーのフォルダに配置されます。これらのファイルはパッチ説明ファイルと呼ばれます。
4. Core CSDB 上の PRIMARY.PATCHMGR ドメインには、この情報が投入されます。
5. 取得した各ブリティンに対するサービスが PRIMARY.PATCHMGR ドメインに作成されます。

6 PATCHMGR ドメインはお使いの Patch Manager SQL データベースと同期化されます。

既に取得を実行したことがある場合は、差分のあるインスタンスのみが更新されます。

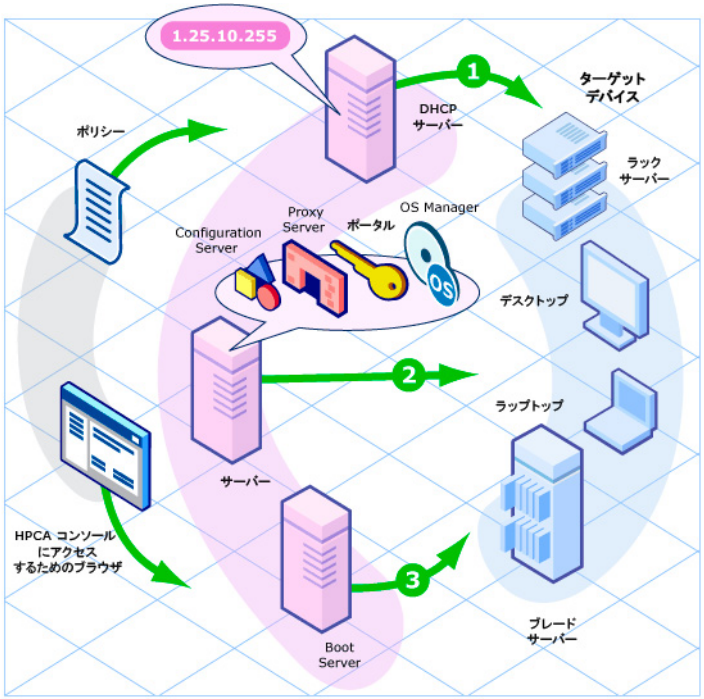
Patch Manager Agent のメンテナンス

パッチ取得の実行時、ユーザーにて企業内の Patch Manager Agent へ使用可能な任意の Agent Update をダウンロード、自動パブリッシュ、配布するよう設定することもできます。

OS 管理ビュー

OS Manager の機能ビューは、Core および Satellite 環境の管理対象デバイスへ OS イメージをキャプチャと配布するため、Boot Server および DHCP サーバーを追加します。

図 5　　HPCA の OS Manager 配布アーキテクチャ



A HPCA Enterprise ガイド

93 ページの表 7 Core Server と Satellite Server の Enterprise ライセンス エディションでインストールされるコンポーネントの追加設定情報を記載した、HPCA ライブラリ内の各種マニュアルの一覧です。

このマニュアルの情報は、この付録に記載されているマニュアル内のすべてのインストールと設定情報よりも優先されます。

HP は、このガイドに特に記載されていない限り、コンポーネント設定の修正を行わないことをお勧めします。

この一覧表だけでなく HP Software サポートの Web サイトで、新しいマニュアルを確認し、最新のマニュアルに更新してください。

表 7　Client Automation コンポーネントとマニュアル

コンポーネント	関連マニュアル
HPCA Agent	
Application Management Profiles	*Application Management Profiles ガイド*
Application Manager および Application Self-service Manager	*Application Manager および Application Self-service Manager ガイド* *Application Management Profiles ガイド* *Management アプリケーション メッセージおよびコード ガイド* *REXX プログラミング ガイド*

表 7　　**Client Automation** コンポーネントとマニュアル

コンポーネント	関連マニュアル
Inventory Manager	*Inventory Manager ガイド* *Management アプリケーション メッセージおよびコード ガイド* *Messaging Server ガイド* *Reporting Server Guide*
OS Manager	*OS Manager ガイド*
Patch Manager	*Patch Manager ガイド* *Messaging Server ガイド* *Reporting Server Guide*
HPCA Server コンポーネント	
Batch Publisher	*Batch Publisher ガイド*
Configuration Server	*入門ガイド* *Configuration Server ユーザー ガイド* *Configuration Server Message ガイド* *Configuration Server Database リファレンス ガイド* *REXX プログラミング ガイド*
Distributed Configuration Server	*Distributed Configuration Server ガイド*
Enterprise Manager	*入門ガイド* *Enterprise Manager ガイド*
Multicast Server	*Multicast Server ガイド*
アウトバンド管理	*アウトバンド管理ユーザー ガイド*
OS Manager	*OS Manager System Administrator ユーザー ガイド* *OS Manager ハードウェア設定管理ガイド*

表 7　**Client Automation** コンポーネントとマニュアル

コンポーネント	関連マニュアル
Patch Manager	*Patch Manager ガイド* *Messaging Server ガイド* *Reporting Server Guide*
Usage Manager Server	*Usage Manager ガイド* *Knowledge Base Server ガイド*
Policy Server	*Policy Server ガイド* *Enterprise Manager ガイド* *Portal ガイド*
Portal	*入門ガイド* *Portal ガイド*
(Proxy) Cache Management Server	*Proxy Server ガイド*(Enterprise Proxy Server を参照)

索引

A

Agent Explorer, 71

E

Enterprise, 66

H

HPCA Administrator
　定義 , 11

HPCA Administrator Publisher, 71

HPCA Agent, 58

HPCA Agent、定義 , 11

HPCA Configuration Server
　定義 , 12

HPCA Configuration Server Database
　定義 , 12

HPCA Core, 58, 77, 78
　Windows サービス , 55
　　依存サービス , 55
　インストール
　　サイレント , 44
　　構文 , 44
　通信 , 59
　　SSL, 20
　定義 , 12

HPCA Core 用 Oracle データベース、作成 , 26

HPCA Core 用 SQL Server データベース、作成 , 25

HPCA Satellite, 58, 62
　Windows サービス , 56
　　依存サービス , 56
　ストリームライン モード , 62, 78
　通信 , 63, 78
　　SSL, 20
　定義 , 12
　フルサービス モード , 62, 78

HPCA Server
　インストール , 29

I

Image Preparation Wizard, 72

M

Management Agent, 70

Microsoft Data Access コンポーネント , 24

O

ODBC DSN, 35

Oracle
　Core データベース
　　接続失敗 , 26

Oracle データベース表領域、作成 , 27

P

PATCHMGR ドメイン , 90

Publisher, 71

S

SQL Server
　サポートされるバージョン , 24

Standard, 66

Starter, 66

T

TCP ポート , 20

Thin client
　管理 , 68

Thin Client サービス
　Windows CE Agent の管理 , 81

U

UDP ポート , 20

V

VMware
　HPCAS のインストール , 22
　インストール要件 , 22

W

Windows サービス , 55
　HPCA Core, 55
　　依存サービス , 55
　HPCA Satellite, 56
　　依存サービス , 56

い

インストール
　HPCA Core
　　サイレント , 44
　　構文 , 44
　HPCA Server, 32

か

管理者、定義 , 11

く

クライアント コンピュータ、定義 , 11

こ

コンソール , 70

し

システム要件 , 17
　HPCA Core
　　通信ポート , 20
　HPCA Satellite
　　通信ポート , 20

初回セットアップ ウィザード , 34

ふ

ファイアウォール設定 , 20

よ

要求ステート、定義 , 11